

# 戦争体験文庫第 66 回資料展示

## 銃後の守(3)

～吐田郷村出征軍人家族の会の記録から



名柄小学校のかたすみにたたずむ吐田郷村忠魂碑

### 目次

#### 解題

(翻刻)

昭和 16 年・・・1

昭和 17 年・・・9

昭和 18 年・・・16

昭和 19 年・・・22

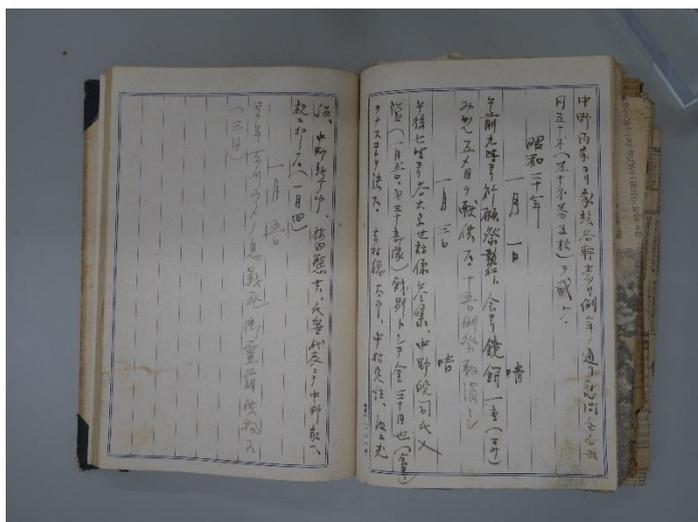
#### 全期間を通しての付論

##### 1. 戦病死者の供養、

四十九日までの各忌日供養について・25

##### 2. 関連諸団体名索引・・・・・・・・・・29

戦争体験文庫過去の展示一覧



最後の記載

令和 6 年 6 月 29 日～10 月 30 日

## 解題

前回にも見たように、日中戦争の長期化に伴って開戦当初の熱も冷め、家族の会の事業の一部は銃後奉公会によって代替されることになった。

昭和16年9月20日には、前年の9月25日に引き続いて、日中戦争開始以来の戦死者の追弔会が行われた。その費用の45円余の大半は、新しく共催者となった銃後奉公会がほとんどを負担しており、家族の会が負担したのはごくわずかな額だった。

従来から、防諜的な理由から出征兵士の歓送については、さまざまな規制やその緩和が繰り返されてきた。昭和16年10月9日には、自主的なものか、村の指示があったかは不明だが、出征軍人を出した家であることを示す「營の家」の門柱を取り外すことを申合している。12月26日には、出征者壮行会の禁止が一部緩和されている。この内容は、10月29日付陸軍省から内地各師団・内務省等への通牒とも一致しており、ここでは、「其ノ歓送方法ハ防諜上特ニ指示スル場合ノ外之ヲ不振ナラシムルカ如キハ其ノ趣旨ニアラス」とする文言も見えている（「入営又は応召に当り見送人等に関する件」アジア歴史資料センターRef.C04123633200）。

こうしたなかで、12月8日の対英米宣戦を迎え、真珠湾攻撃の報を聞くことになった。

緒戦での勝利が伝えられ、それがまだ事実と乖離していなかった昭和17年前半には、偶然にも村出身者の戦死の報は入らなかった。日誌にも、2月18日のシンガポール陥落が盛大に祝われた様子が記され、従来通り家族の会へは俵の提供や慰安会への招待といった各種団体による援助が続き、月一回の祈願祭も続けられている。

しかし、昭和17年後半からは再び村出身者の戦死の報が続くようになり、昭和17年12月16日や18年3月10日、6月28日のように、「総テハ従来通り決行」といった表記が見えるようになる。戦死者の増加の中で「従来通り」の供養を維持してくのが、困難になりつつあったのを感じているがゆえに、あえてこう記したものと思われる。

昭和18年7月31日には、英霊遺族軍人家族会との合同協議会の申合内容が記されている。

従来から、家族の会の記録には、「休会員」という表記が

出てくる。「出征軍人の家族」ではなくなった会員のことで、無事帰還した兵士の家族はここに含まれるが、兵士の戦死によって会員ではなくなった遺族は、「休会員」として会員に準じる扱いを受けていたかは不明である。

遺族にはより多くの援助が必要になることは明白であり、そうした遺族による組織ができることもある意味当然とはいえる。が、家族の会の記録には、英霊遺族軍人家族会が、ある意味家族の会から分かれて結成されていくプロセスは全く記されていないので、ここにある合同協議会はやや唐突に感じられる。

また、申合せの内容も、戦局の悪化を反映し、各種供養の簡素化を求めたものとなっている。当初戦死者が出るたびに行われていた村葬は、年3回に集約された。なお、供養の簡素化については、巻末の「全期間を通しての付論1. 戦病死者の供養、四十九日までの各忌日供養について」でも扱っているので参照されたい。

昭和18年9月20日には、北支で戦死した中野万太郎の満中忌に会員が参加しているが、忌日参拝の記事は、以後一切見えなくなる。25日には、再び出征行事の規制が強化され、壮行会や国旗掲出の禁止はもちろん、軍服ではなく私服で、応召であることを示す奉公袋は風呂敷で隠して出征するようという指示が出ている。かなり極端な内容かつ従来の陸軍省の方針とも背馳しており、どのレベルから降りてきた指示か特定できなかった。

翌昭和19年になると、何とか維持してきた月1回の祈願祭と戦死や会員の死亡の報告といった記事が淡々と記されるだけになる。記録が始まって以来、元旦や開戦何周年といった節目で記されていた記録者小島重太郎の時局への所感も、この年には一切見られない。ついには昭和20年1月5日の記載を最後に、7年余り続いた記録はとぎれることになる。

なお、前回・前々回を含めて、常用漢字がある場合は、常用漢字に改めたが、原則的に記載の表記をそのまま用いた。記録者の用法である校堂（講堂）や一週忌（一周忌）といった表記は、誤読の恐れがない場合は、修正せずママもつけなかった。

昭和十六年

一月一日

聖戦下四タビ迎ヘル元旦。今日午前九時ハ国民奉祝ノ時間ダ。鳴リ渡ル汽笛、サイレン、鐘ノ音ヲ合図ニ、一億国民ハ街頭ニ、家庭ニ起立。厳肅ナ宮城遙拝ヲ行ヒ、声高ラカニ万歳ヲ奉唱。戦没将兵ノ英霊ニ感謝。更ニ大陸ニ活躍スル勇士ノ武運長久ヲ祈ル。年モ佳シ紀元二千六百一年、日本ノ新世聖記、大政翼賛運動開始以来、始メテノ新春ヲ迎ヘテ臣道実践ノ決意ヲ新ニシナケレバナラナイ、意義深キ奉祝ノ時間デアル。総テノ行キ掛リヤ旧習ヲ捨テ、新体制下翼賛運動ニ協力、身ヲ以テ臣道実践ノ実ヲ揚ゲネバナラナイ。

我が家族会モ午前八時ニ祈願例祭。応召者木村一次・米田博之両君ノ武運長久祈願祭並行。紀元二千六百一年ノ意義深イ第一歩ヲ印シタ。

一月八日 晴

午前九時ヨリ銃後奉公会及家族会ニヨリ、名柄校忠魂碑前ニ於テ、応召兵木村義雄・吉村豊一君ノ壮行会ヲ兼ネ武運長久祈願祭執行。

向後応召兵ノ祈願祭ハ一言主神社ニ於テ執行ハ取り止メ、忠魂碑前ニ於テ壮行会ヲ兼ネテ執行スルコトニナリ、其ノ都度各大字世話係へ案内状ヲ(奉公会ヨリ)出スコトニナレリ。

【欄外挿入】当日中野佐一郎君召集解除。高橋勲慶召集解除

一月十九日 晴

森脇梅田徳松氏死亡香料壺封、当該大字世話係リヲ通ジテ呈ス(茂徳君父)。

一月二十五日 晴

又例年ノ通り各銃後ノ御厚情。銃後奉公会ヨリ金壺封(弍円)、信用組合ヨリ豆炭一俵、中野両家ヨリコヤドーフ五十(一包)ヲ各出征家族へ下サレ、何日迄モ変ラナイ銃後ノ御厚情ニ感泣。事変ニ処シテ固イ固イ決意ヲ益々新ニスルト共ニ、長期戦

ニ対シテノ我々家族ノ者等ハ堪ヘ得ル事ヲチカッタ。

当日中野佐一郎召集解除。高橋勲慶召集解除。

二月一日 晴

午後一時ヨリ名柄小学校庭ニ参集。各大字神社巡拝ヲナシ最後ニ一言主神社ニ於テ祈願例祭執行。

当日久保徳三氏ヨリ神酒一本寄贈ヲ受ク。

当日谷口治雄・吉川盾太郎・中村平左衛門・吉村明召集解除。

【欄外挿入、衍】当日中野佐一郎君召集解除。高橋勲慶召集解除

【欄外挿入】二月七日 晴 梅田巖・木村光義・島田三蔵・木村久雄召集解除。

二月十五日 晴

午後一時ヨリ本久寺同寺主催ニ於テ出征軍人武運長久祈願祭執行サレ、会員一同揃ッテ参拝。各家族へ御供物及清正公ノ勝守ヲ戴キ、同四時解散。

会ヨリ御供物(ミカン一貫目)ヲナス。

三月五日 晴

増中川市五郎君召集解除。

三月十日 晴

吐田郷村国防婦人会ヨリ村出身出征軍人へ慰問袋ヲ寄贈、発送サル。

三月十五日 晴

名柄黒田末広君召集解除。

三月二十日 晴

午後七時ヨリ龍正寺ニ各大字世話係リ参集。銃後奉公会主催ニテ、家族慰安ノ催物ニ対シテ、役場ヨリ、当方ニ於テ計画ヲ申出デトノ事ニ付き、種々協議、左ノ通り申合セナシ、吉村徳治郎・小島重太郎両氏ガ種々交渉スルコトニナリ十時解散。

一、万才諸芸大会

一、休会員モ全部招待シテ戴クコト

一、四月中旬頃迄ニ開催ノコト

三月廿六日 晴

村青年団主催、大正座ニ於テ午後六時ヨリ家族(出征兵士)慰安ノ為メ、活動写真大会ヲ催サレ招待アリ。見物ニ行キ十時半解散ス。

四月一日 雨

午後八時ヨリ祈願例祭執行。奉公会ヨリ鳥井君参列。当夜鳥井君ヨリ本月八日午後一時ヨリ、大正座ニ於テ家族慰問演芸大開【ママ、大会】ニ招待ノコト発表アリ。招待券ヲ各家族宛ニ(現在休会員モ含ム)招待券三枚宛ヲ下サルコトニナリ、各大字世話係リ~~ヲ~~託ス。事変当初ヨリ現在迄ノ家族数ハ計百六十六名。

四月八日 晴

午後一時ヨリ大正座ニ於テ村銃後奉公会主催慰安演芸・万才大会、並ニ高田サロンオーケストラ。会員一同(井関清治・平井駒一両君ノ尽力)ノ特別出演~~ヲ~~後ニ招待アリ。会員続々揃ッテ(休会会員モ)出席。午後六時頃一同感謝ト満足裡ニ解散。世話係リ一同又小島宅ニ於テ、役場ヨリ弁当及酒ノ接待アリ。午後九時頃帰路ニ着ク。当日村長ノ挨拶アリ。家族会ヨリ謝辞文ヲ読ム。

四月十三日 雨

応召者セキヤ吉村清作、宮戸大森登、名柄高橋三千雄(天理教師)、多田北村稔(行方不明)三君ノ壮行会ヲ学校々堂ニ於テ盛大裡ニ举行サレ、元気ヨク出発ス(午前九時ヨリ)。

四月二十八日 晴

増高村五郎・井上元治・福岡清一三君、召集解除帰還サル。

五月一日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭並ニ桜井健一君病氣、内地病院入院ニ付キ、平癒祈願祭併行。尚会ヨリ見舞金壺封呈ス。

五月十一日 晴

龍正寺ニ於テ午後八時ヨリ大字世話係参集。左ノ申合セヲナス。

一、本月廿五日ノ楠公祭ニ家族会(休会員モ含ム)全員登山参拝。

一、石本先生病氣見舞ニ代表ニテ、吉村徳三郎・吉村徳太郎・杉田常治・中村利吉・池口角治郎・小島重太郎諸氏参上。見舞金三円ヲ呈スルコト。

五月十三日 雨

午後八時ヨリ小島重太郎宅ニ参集(各大字世話係)。石本先生病氣、家庭訪問ヲナシ、金三円ヲ見舞金トシテ呈ス。

五月十九日 晴

午前九時ヨリ名柄校庭忠魂碑前ニ於テ、村主催戦没兵士ノ慰霊祭執行。会員一同モ参列。午後ヨリ小学児童ノ相撲大会アリ。盛会裡ニ四時頃一同解散。午後一時ヨリ校堂ニ於テ中佐ノ時局後援アリ。

五月二十五日 降雨

会員一同午前八時ニ名柄龍正寺前ニ集合。ソレヨリ楠公祭ニ参拝ノ為メ金剛山ニ登山。午前十二時ヨリ出征兵ノ武運長久祈願ヲナシ、午後ヨリ小学児童ノ相撲大会ヲ見ル。午後三時頃各自思ヒ思ヒニ下山ス。当日御膳料一円、神酒二本、スルメ壺包ヲ御供ヘス。

六月一日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。終了後社務所ニ於テ信用組合ヨリノ空俵五百枚ヲ家族数ニ割宛(農家ニ限り)ス。一軒宛六俵、残数二十一俵ヲ名柄・東名柄以外ノ各大字ニ三俵宛ツ分配ス。

名柄四十二俵、東名柄五十四俵、森脇五十七俵、関

屋三十八俵、増九十九俵、多田三十九俵、寺田六十九七十四俵、宮戸四十五俵、豊田五十七俵 計五百俵五百五俵四百九十五俵。戦病死者ノ家族モ含ム。

六月十日 晴

信用組合ヨリノ空俵配給ヲ各大字ヨリ取りニ行き、各家族へ割宛配給ス。

六月六日 (ママ) 晴

有江一男君ノ一週忌ニ御霊前供物ヲナス。金壹封(壹円)。尚有江氏ヨリ金五円也ヲ会ノ基金トシテ寄贈サレタガ、御厚志ダケヲ受ケ、金ヲ返スコトニナシ、向後同様ナ寄贈ハ受ケナイコトニ申合セヲナス。

例年の通り農繁期ニハ各中、女、小学生ノ労力奉仕ガアリ、多大ノ感メイヲアタヘテキル。

各大字共水運ハ順調デ、全村廿五日ニサナブリヲシタ。

七月一日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。春ノ収穫期モ終リ水モ順調。参拝者多数ナリキ。

七月七日 晴

事変四週年記念日。当日一言主神社デハ出征軍武運長久祈願。村仏教聯盟主催ニテ、名柄龍正寺ニ於テ、戦病死者追弔遺霊祭執行。会ヨリ神社及ビ龍正寺へ各種供物ヲナス(二銭マンナ。百宛)。

【欄外追記】七月八日 豊田木村弥平応召下令。

七月十一日 曇リ

午後七時動員下令、左ノ諸氏応召。

西城喜一郎・同喜代治・平井駒一・竹内太三郎・小島育治郎・中田茂 以上名柄

中野喜一郎・中村平八郎・米田太一郎 以上東名柄

梅田茂滋(寺田)

木村八郎(宮戸)

高橋亀太郎・片上善和・片上勝・吉川忠春・梅田寅雄 以上森脇

上之坊櫛太治郎・吉川政一(以上豊田)

中村紀雄・戸間久夫 以上増

此ノ度ノ入営者ヨリ防諜関係ニテ、壮行会(村)祈願祭ハ中止ハ中止、只村名誉職員及各種団体長及家族会世話係ノミ参列、祈願祭執行。入営当日ハ見送りハナシ。

国旗モ入営当日ダケ、入営者ノ間口ニ交サスル。又入営者ハ私服着用。軍服及奉公袋ハ風呂敷へ包ムコト。入営後ハ外部トノ連絡ハ絶タル。

七月廿二日 晴

多田北村利一君、兵役免除後モ京都陸軍病院ニテ(青谷療養所)静養中、本日死去。小島重太郎代表ニテ遺骨ヲ迎ヒ(午後十一時四十分)、引続き通夜ヲナシ、午前二時半帰ヘル。

七月廿三日 晴

午後八時ヨリ小島重太郎宅ニ於テ各大字世話係参集左ノ申合ヲナシ、北村利一君ノ宅へ弔問、通夜ヲナス。(金参円)

申合セ

一、兵役免除者ニテモ引続き病院(陸軍)ニテ静養、死去ノ際ハ、各大字世話係リノミ弔問、通夜ヲナシ、葬儀ノ際ハ世話係ノミ参列ノコト

一、供物ハ戦病死者ト同ジ(参円)

一、香料ハ二円

一、満中忌及一週忌ノ霊前供物ハセズ

七月廿四日 晴

午後三時ヨリ北村利一君葬儀ニ各大字世話係参列。香料二円贈供。

七月廿三日 (ママ) 晴

午後十一時半頃動員下令。左記諸君応召。

吉村政一（セキヤ）・吉村孝雄・木村宗一・木村治男・吉村繁一・木村正雄・駒谷勘治・吉川綾夫・芳松（以上豊田）・高橋淳矢・森櫛義（以寺田）・高村五郎・木村安治・植田武夫・同勝治・辻本忠雄（以上増）・梅田芳信・梅田源・梅田棟源・西川清太郎・同清治郎・地村直治・梅田音治郎以上（森脇）・出羽義一郎・石本史雄・奥田隆平・池口義堯（名柄）・中島徳松・中野新助（東名柄）・吉川辰治・吉川綾夫（多田） 以上

七月廿九日 晴

午後八時ヨリ各大字世話係龍正寺参集。左ノ事項申合セス。

一、各大字世話係毎月一回（毎月五日）午後八時ヨリ役場ニ参集、会員ノ実情ヲ語り合ヒ、銃後奉公会ト協力ヲナシ、奉公会ヲシテ指導的立場ノ感ヲ益々深カラシメ、時局ニ対応、会員ヲ後顧ノ憂ナカラシメナイヤウ（ママ）。鷺尾君ハ奉公会ノ専任書記ニ就任。

一、集会ノ場合茶菓子全廃。

八月一日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭。終了後社務所ニテ鳥井兵事主任ノ時局ニ対シテノ会員ノ心構へ、鷺尾君就任ノ挨拶並ニ希望ヲノベラレ九時半頃解散。

八月五日 晴

午後八時ヨリ第一回世話係集会ヲ役場会議場ニ於テ開催。奉公会及役場側ヨリ高橋義一・鷺尾定雄・鳥井達之輔各氏及各大字世話係リ出席。左ノ申合セス。

一、軍人家庭ニ出産ノアッタ場合、直ニ銃後奉公会へ通知ノコト

一、県内一円通用ノ軍人家族医療券交付ヲ希望ノ者ハ、奉公会ニ談ジ交付ヲ受ケルコト（但シ一般軍人家族ハ三割引、扶助者ノ受ケル家族ハ無料券）

一、応召・入営軍人ガ入院（外地内地共）セラレタ

ト通知ノアッタ場合ハ、奉公会へ通知ノコト。県知事ヨリ見舞金ヲ受ク、ソノ通知ノ証明トナルモノハ、入院月日・負傷箇所病名・病院名・負傷ノ場所等ノ葉書又ハ手紙ヲ持参ノコト

一、生業扶助申請希望者者ハ奉公会へ相談スルコト

（全部奉公会ヨリ指示サレタ事項）

八月十三日 晴

村銃後奉公会ヨリ信用組合ヨリ出征軍人一人ニ対シテ金壺封（貳円）宛、慰問（中元）トシテ下サル。長期戦ニ対シテ此ノ御厚志、只涙グマシイ限りデアル。

八月十七八日 晴

中野両家ヨリ中元慰問品トシテ、名柄ノ商人（主ニ食料品店）~~ヲ~~ノ記名入リノ券（一枚五十銭券五枚）一組宛ヲ戴ク。

此ノ度ヨリ本村ニ居住ノ家族ノミニ限ラレルコトニナリ、中野家モソレニ准ゼラルル。

八月廿三日 晴

午後三時ヨリ宮戸・豊田・名柄・多田・増各大字世話係リ一同、役場銃後奉公会及中野両家ノオ礼ニ参上ス。

九月一日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。社務所ニ於テ左ノ申合セ事項、協議決定ス。

一、十月ヨリ毎年祈願例祭ヲ十五日午後八時ト決ス（理由ハ毎月一日ハ全国的ニ隣組常会ヲ実施セラル、ニ付キ）。

九月三日 参加人員九十二名 晴

初秋ノ心地好イ午後一時ヨリ会員打揃ッテ一言主神社並木・参道路及社宛ノ清掃ヲ行フ。

一、神酒二本 久保徳三氏寄贈

一、同 一本 伊藤氏寄贈

一、センベイ一貫五百匁 会ヨリ供饌

九月四日 晴

村軍友会・在郷軍人会・国防婦人会共同主催ニテ活動写真大会開催。開催午後六時ヨリ。出征軍人家族慰安ノ為メ招待券各三枚宛下サレ、見物ニ行ク。

九月五日 晴

午後八時ヨリ第二回各大字世話係ハ、常会ヲ役場ニ於テ開催。当夜申合セ事項。

- 一、祈願例祭毎月十五日ニ決定ス（十月以降）
- 一、常会開催前ニ出征軍人武運長久及戦没将兵ニ対シ感謝黙禱ヲナスコト。東方遙拝
- 一、第一回見舞呈後、六ヶ月以上入院者及ソレニ依リ現役・兵役免除退院者ハ見舞金ヲ再度贈呈スルコト。ソレハ常会席上協議ノ上
- 一、追弔会ハ九月廿日（彼岸入り）ニ執行ノコト。当夜出席大字（宮戸・森脇・豊田・寺田・名柄）鷺尾・鳥井。

（表紙）

「

昭和十六年九月以降  
記録簿

吐田郷村  
出征軍人家族の会

」

九月十三日 曇り後雨

増植田忠治君、七月上旬ヨリ病氣ニ依リ呉海軍病院入院ニ付キ、当該大字世話係リヨリ見舞（家庭）ヲナシ、金壺封呈ス。同名柄富永常蔵君、病氣ニ依リ内地病院入院ニ依リ、当該大字世話係リ及宮戸吉村徳太郎氏等ト共ニ家庭慰問ヲナシ、金壺封ヲ呈ス。

九月十八日 雨

十日間降り続ク雨、米ノ花盛リノ降雨、一日モ早ク晴天ニナツテホシイハ百姓農民バカリデハナイ。今日午後八時省線御所駅集合ニテ、吐田郷村ノ信貴山講ヨリ、村内出征軍人及ビ傷病兵ノ祈願祭ヲ信貴山ニ於テ催サレ、家族一軒宛一人当リノ割合ニテ招待ヲ受ケ参拝ス。講ヨリ御守札・御饂米ヲ出征兵士一人当リノ割合ニテ下サレ、感謝ノ裡ニ午後五時頃帰着ス。

九月二十日 晴

午後七時ヨリ家族会ノ年中行事ノ一タ、本村出身戦病死者英霊追弔会ヲ龍正寺ニ於テ執行。今年ハ鷺尾氏帰還中トテイトモ盛大ニ取行ハレタ。今回ヨリ本年度銃後奉公会ノ慰問受領者家族ニ准ジテ（本村居住遺家族ニ限ル）、執行スルコトニナツタ。各遺家族及ビ三団体長ニ左ノ案内状ヲ送付ス。  
謹啓 秋氣次第ニ相加里候処、銃後益々御奮闘ノ条奉謝候。陳ハ今事変殉国英霊ノ遺勲ヲ偲ビ、追悼ノ至誠ヲ捧グベク、来ル九月廿日午後七時ヨリ、名柄龍正寺ニ於テ追悼会相催スベク候間、御繰合セ御参会、御焼香賜リ度ク、此ノ段御案内申上候。

主催 吐田郷村出征軍人家族の会  
後援 吐田郷村銃後奉公会

当日支出明細表

- 一、五円 龍正寺礼
- 一、参円 別ニ寸志
- 一、六円 番役僧四人ノ礼
- 一、参円五十銭 供花中野利吉氏払
- 一、弍円八十五銭 ナシー一貫五百匁 竹政払
- 一、弍円五十銭 ブドウ二箱 平駒払
- 一、五円五十銭 センベイ一貫目 井関払
- 一、三円 マンナ百五十 富永払
- 一、壺円九十六銭 ローソク八匁二箱・五匁二本 梅田払
- 一、壺円七十七銭 夜食用諸払

一、八十五錢 トマト一貫七百匁  
一貫目五十錢割 寺田梅田払

一、雑費 四円

計参拾九円九拾三錢也

収入

一、三十五円 銃後奉公会ヨリ補助

一、六円 三団体ヨリ御供

計四十一円也

別ニ当夜終了後ノ左ノ奉仕者（午後一時ヨリ）ノ  
夜食代トシテ六円六十錢也ヲ支出ス。

合計差引金高五円五十三錢也ヲ会ノ一般会計ヨリ  
支出ス。

当日ノ奉仕者（午後一時ヨリ）

吉村徳太郎・吉村徳三郎・中野利吉・~~梅田~~中村新太  
郎・池口角治郎・小島重太郎・中村兵治・吉村幾太  
郎・梅田元治郎

九月廿九日 雨

寺田森善吉、名柄松田源吉、両君動員下命。

九月廿八日 雨

セキヤ中川菊治郎君動員下命。

十月一日 雨

森善吉・松田源吉君応召入隊。同宮戸木村八郎君  
召集解除。同日宮戸木村八郎召集解除。

十月二日 晴

中川菊治郎君応召（再度）入隊。平井駒一郎君召集  
解除。

十月三日 晴

平井駒一郎君召集解除。五日ノ会主催大字世話係  
リノ常会ヲ、銃後強化週間ナノデ左ノ事項申合セ  
ス。

一、十月四日午前八時ニ、櫛羅不動寺ニ森脇・宮  
戸・豊田ノ世話係リガ参拝。吐田極楽寺ニハ増・  
関屋世話係リ、東山ニハ寺田・多田世話係リ、

名柄新墓ニハ名柄・東名柄世話係リガ同時刻ニ  
参拝ヲナス。ローソク二本・線香一ツトヲ持参。  
墓参ハ遠近ナノデ抽選ヲナス。

十月九日 晴

午前八時三十分、突然呉海軍病院ヨリ役場へ、植  
田忠治君戦病死ノ公報来ル。七月六日ヨリノ病院  
生活、本人モサゾ残念ナ事ダロウ。午後七時ヨリ  
各大字世話係リ一同、植田君宅へ弔問ニ行ク。並  
ニ霊前へ供物（金壱封（参円））ヲナス。万事ハ従  
前通り行フ。

十月十三日 晴

午後七時ヨリ植田忠治君ノ初七日ニ、割宛大字会  
員一同参拝ス（関屋・増・名柄）。

【欄外挿入】晴 十月十一日 名柄高橋三千雄君  
召集解除。

十月十五日 晴

好い晴ニ恵マレタ秋日ヨリ、例年ノ通り村ノ秋祭  
リナノデ、午後二時祈願例祭執行。宮戸大字ノ渡  
御ヲ拝シ、会員一同甘酒ヲ戴ク。尚当日宮戸木村  
実・富永常蔵両君ノ病氣平野祈願祭ヲモ併行。

十月廿一日 晴

午後七時ヨリ木【ママ、植】村忠治君ノ二七日ニ割  
宛大字寺田・多田・東名柄ノ各会員一同参拝ス。当  
夜宮戸木村実君ノ病氣見舞金壱封、当該大字世話  
係リヨリ呈ス。御神付及神饌ヲ添ヘテ。

十月廿五日 雨

午後七時ヨリ毎月五日ノ各大字世話係リ常会ヲ繰  
上ゲ（十一月五日）テ開催。左ノ通り協議ス。

一、各大字神社巡拝並ニ龍正寺・浄泉寺・本久寺ノ  
三寺ヲ巡拝。植田君ノ冥福ヲ祈ルタメ

一、植田忠治君ノ満中忌ニハ各大字世話係ノミ参  
拝

一、例年ノ通り信用組合ヨリ家族会員ノミニ空俵配給サラレルノデ、ソノ割宛ヲナス。割当法ハ例ノ通り。各会員（農家ノミ）ニ平等ニ分配ヲナス。六〇〇俵（サンダハラ付一俵二十五銭ノ割）一軒宛六俵ノ割ニテソノ残額ハ合議ノ上ニテ下三ヶ大字ニ一任スルコトニ決ス。

十月廿八日 晴

秋晴ニ恵レタ好天気。例ノ通り午後一時学校々庭ニ集合。ソレヨリ順次参拝。植田忠治君宅前ニ一同整列、黙禱ヲナス。午後四時一言主神社ニ参集、祈願ヲナシ参会。奉公会ヨリ神酒二本寄贈アリ。会ヨリ御膳料一円也ヲ献ス。当日中川菊治郎君義母堂葬儀ニ香料一円也ヲ呈ス。向後銃後奉公会ヨリ、現地将兵（本村出身）へ毎月一回、慰問状ヲ発送シテ下ルコトニナリ、ソノ第一回ヲ発送シテ下サル。

十一月四日 晴

午後七時ヨリ植田忠治君ノ四忌日ニ割宛各大会員参拝。又例年ノ通り各中・小・女学校生徒ノ涙グマシイ労力奉仕ガ、毎日ノ好天気ニ恵マレテ懸命ニ立働イテ家族ヲ喜バセテキル。今期ヨリ吐田郷村各大字（下三ヶ大字ハ豊田。東名柄。寺田。）ニ託児所ガ設ケラレ、四五歳位ノ子供ノ世話ヲ各大会員ノ女子青年団ガシテキル。将来ハ各大会員ニケ所位出来ルコトデアラウ。モウ少シ馴レテ来レバ、生後間モナイ子供ヲモ預ル事モ出来ルダロウシ、ソコ迄行カナケレバ、實際託児所トシテノ無値ガナラニ意義ガナイ。

十一月八日

今期始メテノ国防婦人ノ各家族ヘ対シテノ熱誠ノ勤勞奉仕ダ。コウシテ一年ト共ニ加ル銃後ノ後援、只々感謝ノ涙アルノミ。我ガ日ノ本ニ於テノミ味ヘル感激ダ。~~尚本日ヨリ銃後奉公会ヨリ前線勇士ニ慰問状ヲ発送サレルコトニナッタ。~~

十一月十一日 晴

午後七時ヨリ植田忠治君ノ五忌日。割宛各大会員一同参拝。收穫期最中ナノニ多数参拝。

十一月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。並ニ吉村孝雄・安川常治郎・中村隆義三君ノ病氣（現地）入院ニヨル平癒祈願祭併行。終了後社務所ニ於テ、各家族ノ譽ノ家門標ヲ取外シヲ申合せ、即時実行（防諜ノ関係上）。

十一月十八日 晴

梅田忠治君ノ六忌日ニ割宛各大会員家族参拝ス。

【欄外追記】十一月廿日 高村五郎召集解除。

十一月廿五日 晴

植田忠治君ノ満中忌ニ各大会員世話係リ及当該大会員全員参拝。霊前ニ供物ヲス（金壺円也）。

【欄外追記】十一月卅日 高橋歳一満期除隊。

十二月一日 晴

村警防団主催ノ演劇ニ家族会ヲ招待サレ、午後五時ヨリ一同観劇ニ行ク。

十二月五日 曇リ

池口正夫（負傷入院）・中村隆義（病氣入院）何レモ内地病院入院、家庭慰問及見舞金壺封ヲ当該大会員世話係リヨリ贈呈ス。

十二月八日 晴

本日午前十一時四十五分対英米宣戦ノ大詔發布サル。宣戦ノ大詔コ、ニ渙発サレ、一億国民ノ向フトコロハ厳トシテ定ツタノデアル。我陸海ノ精銳ハスデニ勇躍シテ起チ、太平洋ハ一瞬ニシテ相貌ヲ変ヘタノデアル。今ヤ皇国隆替ヲ決スルノ秋。一億国民ガ一切ヲ国家ノ難ニ捧クベキ日ハ来タノ

デアル。

十二月十五日 晴

午後七時祈願例祭執行。本年度会事業タル第一線勇士へ発送ノ慰問文・事業報告書及学童慰問文ヲ封入ス。

十二月十七日 晴

梅田忠治君英霊午前八時四十分御所到着。列車ニテ無言ノ凱センヲ家族会員及各種団体駅迄出迎フ。沿道徒歩シテ午前十一時、学校忠魂碑前ニテ、浄泉寺導師ニテ読経ノ後、我家ニ還ヘラル。今夜ハ各大字世話係リヲ一名宛参列。(霊前ニ) 御通夜ヲナス。

十二月十八日 晴

午後一時ヨリ仏式ニテ学校々堂ニ於テ村外各団体及村内各種団体参列、盛大ニ村葬執行サル。会ヨリ香料壺封(二円也)呈ス。終了後小島宅ニ各大字世話係リ参集。奉公会ヨリ特別配給ノ氷砂糖ノチケット九十斤ヲ戴キ、会員ニ分配ス。各家族一軒宛八十匁。御所駅前田店迄中野利吉氏受取りニ行ッテ下サッタ。

十二月二十一日 晴

又例年ノ出征兵士ヘノ慰問文及事業報告書ヲ発送ス。合計百二十三通。部隊名不明者七名。

十二月廿六日 晴

宮戸吉村一郎君、名柄植村勇両君応召中部二十七部隊入隊ニヨル(廿八日午後一時) 壮行会、並ニ長久祈願祭ヲ一言主神社々前ニ於テ執行。今回ヨリ(本年七月以降時局ノ推移並ニ防諜上厳禁サレテキタガ) 改訂サレ、送別ノ為メノ祝宴、送別会ハ行ワザルヲ本則トシ、歡送式ハ学校或ハ神社境内等ニ於テ厳肅ニ行ヒ、乗車停車場(ホームニ入場セザル様) 迄ニ止メルコトト改定サル。又応召家族ノ門戸ニハ、国旗ヲ交叉シ其ノ外旗幟提灯ヲ廃止

シ、幕等ヲ張り繞ラサザルヤウノコト。

十二月廿八日 晴

午前六時役場発、午前七時二十七分御所駅ノ列車ニテ勇躍吉村一郎・植田勇君両君入営サル。会員一同御所駅迄見送りヲナス。

信用組合ヨリ家族一軒宛ミカン一貫目宛ヲ慰問トシテ下サル。尚銃後奉公会ヨリ金壺封(貳円)ヲ家族一軒宛ニ下サル。



解 圖		や 安んじて 勞を厭ふこと勿れ
戦地ではどんな場合でも安心して居ることが出来ません決して勞を厭ふ様なことはありませぬ。吾等銃後の者は尙更骨惜みをしてはなりません。		

「戦陣訓かるた」より

昭和十七年

一月五日 降雪

午前七時一言主神社赤イ鳥居前ニ会員一同集合。降雪モ物トモセズ、会員一同徒歩ニテ榎原神宮ニ参拝。武運長久祈願ヲナシ、終了後自由解散ヲナス。当日御膳料一円也ヲ神饌ス。

一月六日 曇リ降雪

今年度(十七年度)入営・入団者ノ壮行会及武運長久祈願祭ヲ、午後一時ヨリ一言主神社ニ於テ村主催ニテ執行。会員一同モ参列ヲナス。

一月九日 晴

午前九時村役場前ニ本年度第一回目ノ入営・入団者ノ見送りノ為メ、集合場所御所駅迄見送りヲナス。

入営・入団者左ノ通り

【記載なし】

一月十五日 晴

午前七時祈願例祭執行。終了後社務所ニ於テ左ノ申合セヲナス。

一、二月十五日ハ旧正月ナノデ、午後一時例祭執行

一、実費ハ半期毎ニ徴収

【欄外追記】一月廿九日 晴

池口敏郎・森田登士夫両君応召、入営ニヨル壮行会ニ会員一同参列。午後一時ヨリ。

二月壱日 晴

~~本年度第二回現役兵及ビ召集兵池口敏郎君入営ス。~~

二月五日 晴

午後七時ヨリ役場会議場ニ於テ、定例家族会常会開催。欠席大字関屋ノミ。席上左ノ申合セヲナス。

一、二月十五日(旧正月一日)午後一時参拝

一、病氣見舞(出征兵以外)取消

出席者(当夜) 鷲尾・鳥井、名柄・多田・東名柄・寺田・宮戸・森脇・豊田・増

二月九日 晴

増森田登士夫・植田フミエ両氏入隊、入所

二月十三日 晴

中野両家ヨリ例年ノ通り家族慰問(年末)ヲ、今冬ハ第一線兵士ニ対シテノ慰問品ト送料五十銭ヲ下サル。何日ニ変ラヌ御厚情、家族ハ只有難涙ニクレテキル。今年ハ被徴用者ニモ慰問品ヲ下サレタ。

二月十四日 晴

セキヤ中川・森脇 【記載なし】ノ動員下令アリ。

二月十五日 降雪

朝カラシトシト降ル雪。如何ニモ旧正月ニフサハシイ日デアル。午後七時ヨリ定例祈願祭執行。今日ヨリ定例祈願祭ニハ、翼賛壮年団員モ祈願ニ参加サレ銃後ノ守、益々固キヲ思シメ、或ル一種ノ心強サヲ感ゼシメタリ。

二月十六日 晴

関屋中川喜芳君動員令下令。

【欄外追記】二月十七日 中村稔動員下令。

二月十八日 晴

戦捷第一国民祝賀ノ十八日、大和路一帯、密雲ハ深カッタガ、県民ノ心ハ喜ビト感激ノ日本晴ダ。街ニ村ニ、遠ク吉野ノ険峻伯母ヶ峰峠ノ一軒家ニマデ翻ヘリ輝ク日章旗ノモト、我吐田郷各町村トモ嬉シイ慶祝行事ヲクリヒロゲ、民一億ニ和シタ大万歳ノアト、旗行列ニテ、意義深イ一日ヲ寿キ尊イ英霊・白衣勇士中、第一線勇士ヘ赤誠コメテ感謝ノ祈念ヲ捧ゲルモノデアッタ。我吐田郷村モ、午後〇時村民一戸宛ニ一人ヅ、及各種団体一同

学校々庭迄ニ集合。児童ヲ先登(ママ)ニ各大字及神社ヲ巡拝。最後ニ一言主神社ニテ感謝祈念ヲナシ、万歳三唱、解散ス。

(新嘉坡島(昭南島)陥落夜)

セキヤ中川嘉芳君入営、御所駅迄見送り(午前十時二十分乗車)。

二月十九日 雨

午前十時二十分御所駅発列車ニテ、増梅田伊作、寺田木村三郎君入営見送りヲナス。御所駅迄。尚当夜小島宅ニ於テ各大字世話係リ参集。左ノ申合セス。

一、三月一日(旧一月十五日)午後一時ヨリ各大字神社巡拝。

三月一日 晴

快晴ニ恵レタ巡拝日和。午後一時例ノ通り、学校々庭ヲ一同揃ッテ出発。各大字神社巡拝ヲナシ、最後ニ一言主神社々前ニ於テ、武運長久祈願ヲナシ解散。会ヨリ御神饌(一円)・御神酒一本ヲ献ツ。

三月五日 雨

午後七時ヨリ定例常会ヲ役場会議場ニ於テ開ク。別ニ協議事項ナク、役場側ヨリ時局経済ノ話アリ。九時半解散。

出席者 役場側 高橋義一・鷺尾・鳥井

家族側 関屋大字・名柄大字・東名柄大字・宮戸大字・多田大字、以外欠席

三月十一日 晴

関屋東野久三郎君祖父死亡。会ヨリ香料一円呈ス。

三月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。翼賛壮年団員一同始メ、銃後奉公会ヨリ多数参列アリ。

三月廿五日 晴

豊田吉川正一君召集解除。

四月九日 晴

寺田高橋襄輔、森脇玉置幸一郎、名柄上田昇・末吉俊郎各君現役兵トシテ入営ヲ、御所駅迄送ル。午前十時十七分御所駅発ノ列車ニテ。

四月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。終了後社務所ニ於テ左ノ申合セヲナス。

一、四月二十一日神社ノ春季大祭ニ会ヨリ神酒一本ヲ献納ス

同日増中村檜吉君応召入隊ス(中部三十七部隊)。

四月十八日 晴

森脇梅田保君葬儀ニ香料金壺封(一円)ヲ呈ス。当該大字世話係リノ手ヲ通ジテ。

四月二十一日 曇

神社ノ春季大祭ニ会ヨリ神酒一本献ズ。当日森脇片上勝君父君ノ葬儀ニ、香料金壺封呈ス。

五月四日 曇リ

池口義堯君祖母葬儀ニ香料一円呈ス。

五月十一日 晴

関屋中村貫蔵君祖父葬儀ニ香料一円呈ス。

五月十八日 曇リ

寺田森稔君応召、入隊ヲ見送ル。中部二十三部隊入隊。

当日招魂祭ニ会員参拝。会ヨリお供物ヲナス(三円五十銭菓子)。

五月十五日【ママ】 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。

五月廿一日 晴

信用組合ヨリノ空俵、家族会員ニ限り配給ノ数量

六百俵ヲ、各大字世話係参集（役場会議室）。臨時常会ヲ開キ、左ノ通り割宛配給ス。配給法ハ従前通りニテ空俵一俵サンダワラナシニテ二十五銭ノ割。各大字家族（農家ニ限り）合計百二名。空俵ノ追加分十二俵、組合ヨリ別ニ配給ヲ受ク。

六月~~朔日~~五日 晴

愈々収穫期ニ近ヅキ、何日モ変ラナイ銃後ノ熱烈サ。会員ハ村又各種団体一体トナリ、特別勞力奉仕隊ヲ設立。銃後ノ農産拡充ヲメザシテ、雄々シクモ涙グマシイ奉仕ヲ連日続ケ、各方面ヨリ感謝ヲ受ケツ、アリ。年ト共ニ加ル銃後ノ熱誠、日本国ナラデハ見ラレナイ大和魂ノ表レデアル。

六月十日 晴

豊田駒谷勘治君召集解除。多田北村正夫、増森田知博・木村一次三君応召。中部二十三部隊へ入隊。

六月十五日 晴

午前八時ヨリ祈願祭執行。村長始メ名誉職員多数参列。尚当夜豊田吉村正俊君病氣ニテ入院、平癒祈願祭ヲモ並行ス。

六月廿八日 晴

森脇梅田延太郎君、昨年ヨリ徴用者トシテ、比島方面ニ服務中、五月十六日病死ノ通報ヲ六月十九日付ニテ、呉海軍建築部長ヨリ通知アリ。家族会ヨリモ小島君代表ニテ参拜。霊前ニ供物（金貳円）ヲナス。

六月卅日 晴

森脇木村一夫君子息死亡。香料ヲ呈ス（金壹円）。

七月五日 晴

午後八時ヨリ定例常会開催。出席者役場ヨリ鳥井・鷺尾両氏。各大字全部。多田大字世話係山崎貞一君。

申合事項

一、徴用者（軍属）戦死、病死ノ場合ハ、香料一円、霊前供物貳円。ソレ以外ハナシ。

一、忌日参拜 初七日・三七日・満中忌

一、三ヶ大字一組トナシ、代表ニテ三名位参拜

一、遺骨帰還ノ場合ハ会員一同御所駅迄出迎フ

一、葬儀ノ場合ハ会員一同参列ノコト

席上茶菓子トシテ氷十八人分支出（一円八十銭）。

七月十一日 晴

森脇和田菊治君葬儀ニ香料呈ス（一円）。

七月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行、並ニ西城喜代治・木村文雄両君、内地病院入院（病氣）ニ依ル平癒祈願祭ヲモ執行。終了後社務所ニ於テ役場鳥井君ヨリ、防諜ニ関スル色々ノ話アリ。九時半解散。尚各大字世話係リヲ通ジテ、両君へ見舞金壹封及オ守・御饞ヲ呈ス。

七月十六日 晴

宮戸木村利治君子息死亡。葬儀ニ香料ヲ呈ス（壹円）。

七月二十三日 晴

午後一時頃、突然松江市へ行商中ノ中村隆一君ヨリ、会員現在数問合セ電報来リ直チニ返電ス。

七月卅日 晴

中村隆一君ヨリ中元慰問トシテ、ダシザコー人宛三百匁計三十九貫目ヲ送り来リ。早速各大字世話係リ参集、分配ス（六月以降ノ帰還者及鳥井・鷺尾・伊藤氏等ニモ三百匁宛分配ス）。尚当夜中村氏宅へオ礼ニ参上ス。各大字ヨリ一名出席。又森脇木村文雄・西城喜代治両君病氣、内地入院ニヨリ見舞金ヲ呈ス。

八月五日 晴

日々ノ酷暑、大正十三年以降ノ猛暑。丁度三十三

日間ノ間ニ降雨一回、ソレモ一時間位。畠地ハ大方ノ作物不良。

午後八時ヨリ定例常会。欠席大字セキヤ。役場ヨリ鳥井君出席。重要事項ナシ。

八月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭並ニ上田昇君病氣、内地病院入院ニ依ル平癒祈願祭併行。尚世話係リヲ通ジテ金壹封（見舞金）呈ス。

当夜中野両家ヨリ例年ノ通り、家族慰問トシテ物品購入券（五十銭各五枚）ヲ戴キ、各大字世話係リヲ通ジテ配布ス。戦死者霊前及ビ徴用者家族ヲモ含ム。尚物品購入券使用セザル時ハ、ソノマ、信用組合ヘ預ケ入レスルコトモ出来ル。

八月十八日 晴時々降雨

午後六時半奈良中部六十七部隊ヨリ、役場宛ニテ増吉村宗一君、中支戦線ニ於テ戦死ノ公報来ル（戦死ハ五月二十日）。

八月十九日 晴時々降雨

午後八時ヨリ各大字世話係リ小島宅ニ参集。揃ッテ吉村宗一君霊前ニ参拝。家族ノ人々ニ悔ヲノブ。戦死者ニ対シテノ取扱ハ従前ノ通りトナシ、三ヶ大字一組トナリ、忌日毎ニ順次参拝スルコト、ス。霊前供物金三円也ヲナス。

八月廿二日 晴

午後八時ヨリ増吉村宗一君霊前参拝ス。割宛大字増・名柄・関屋。尚当日銃後奉公会ヨリ、出征軍人一人宛ニ金貳円也ヲ慰問金トシテ戴ク。

八月廿六日 晴

午後二時ヨリ各大字世話係リ参集。役場及中野両家ヘ中元慰問品ノオ礼ニ行ク。当日吐田郷村警防団ヨリ、家族会ヘ水難救済協会主催ノ浪曲大会ノ入場券九十枚ヲ戴キ、各大字人員数ニ依リ割宛ス。又銃後奉公会ヨリ各家族一軒宛約四十匁宛ノ

氷砂糖ノ配給アリ。各家族ヘ慰問品トシテ配分ス。

八月廿九日 晴

午後八時ヨリ増吉村宗一君二忌日ニ割宛大字会員参拝ス。

八月卅日 曇り後一時雨

村警防団ヨリ水難救済会事業宣伝賛助券（一枚一円）九十枚ヲ戴キ、各大字ヘ割宛ヲナス（御所国民学校々堂ニ於テ、浪曲及活動写真及ニュース）。

九月一日 晴

午後一時一言主神社赤イ鳥居前ニ集合。ソレヨリ神社参道及ビ社前ヲ清掃。修了後祈願ヲナシ、午後四時半頃解散。神社側ヨリ神酒一本及ビ肴トシテザコ。会ヨリ同・菓子及ビスルメ。

九月四日 晴

午後一時ヨリ吐田郷村仏教聯盟主催ニテ、本久寺ニ於テ、村出身戦死病者英霊追弔会ヲ執行サレ、会員一同参拝。会ヨリ御供トシテ金貳円ヲナス。

九月五日 晴

午後八時ヨリ増吉村宗一君ノ三忌日ニ割宛大字員参拝ス。

九月十日 晴

午後八時ヨリ各大字世話係役場ニ於テ臨時常会開催。左ノ申合セヲナス。

申合セ事項

- 一、十月三日例年通り戦病死者追弔会執行
- 一、場所 龍正寺
- 一、ビシヤコヲ切ル言ハ鳥井君ニ依頼
- 一、各種団体長ニ案内状ハ鷲尾君ニ依頼
- 一、御供餅 三升

九月十二日 晴

増吉村宗一君四忌日ニ割宛大字会員参拝ス。

九月十五日 雨

一言主神社秋季大祭ガ午前十一時執行ナルノデ、  
 会員ハ午前六時学校々庭前ニ集合。各大字神社巡  
 拝ヲナシ、午前十時半一言主神社々前ニ集合。祈  
 願ヲナシ午後一時頃解散。途中多田ノ宮ヨリ猛烈  
 ナ降雨ニナッタガ、一人ノ落伍者モナク全部巡拝。  
 心ヲコメテ祈願ヲナシ、一同心丈夫ニ帰宅ス。  
 尚又上増ニ於テ一同整列、吉村宗一君ノ英靈ヲ向  
 ヲテ黙禱ヲ捧ゲル。

九月十九日 晴

午後八時ヨリ吉村宗一君五七日ニ、割宛大字会員  
 参拝。

九月二十六日 晴

午後八時ヨリ吉村宗一君六七日ニ、割宛大字会員  
 参拝。

九月廿九日 晴

宮戸吉村一郎、名柄小島育治郎両君召集解除。

十月二日 晴

午後七時ヨリ名柄龍正寺ニ於テ戦病死者追弔会ヲ、  
 銃後奉公会・家族会共同主催ノモトニ執行。鷲尾  
 師導師トシテ例年ノ通り、イトモ盛大ニ行ワレタ。  
 今年ハ英靈ノイハイヲオ祭りシタ。参列者各種団  
 体長・名誉職員・遺家族。各種団体長及名誉職員ニ  
 案内状ヲ出ス。

謹啓 秋色頓ニ相加里候処、貴家益々職域ニ御奉  
 公ノ条、奉賀候。陳者今般本村出身（支那事変・大  
 東亜戦争）殉国ノ英靈ノ遺勲ヲ偲ビ、追悼ノ至誠  
 ヲ捧グベク、来ル十月二日午後七時ヨリ、名柄龍  
 正寺ニ於テ追悼会執行仕り度ク候間、御繁忙中ト  
 ハ存候得へ共、御繰合せ御参会、御焼香賜り度願  
 上候。

年月日

吐田郷村銃後奉公会

吐田郷村出征軍人家族ノ会

## 焼香順序

第一焼香所 遺家族

第二焼香所 一、銃後奉公会 二、家族会 三、在  
 郷軍人会 四、軍友会長 五、日本婦人会長 六、  
 名誉職員 七、警防団長 八、壮年団長 九、国民  
 学校長 十、一般参会者

## 諸費用

一、ローソク八匁掛一箱・式匁掛一箱 壹円八十  
 銭 梅田払

一、横封筒二十枚 十二銭 末吉払

一、餅四升（一升五十四銭）三円十六銭 信用

一、菓子 中級一貫五百匁 六円七十五銭

三二払

一、上菓子 一貫目 七円 吉村徳払

一、中菓子 一貫目 四円五十銭 幸代産

一、リンゴ 十五個 七十四銭 平駒

一、梨 二貫目 四円二十銭 同

一、白米五升 二円二十八銭 信用

一、花代（鳥井・梅田熊・中野）六円四十銭

一、魚代（米得、水本） 五円

一、モナカ 百二十五個 七円五十銭 吉村

一、二度豆 七百匁 一円四十銭 竹吹

一、酒四本 九円二十銭

一、僧侶三人（龍正寺末寺ノミ各一円宛、

僧別ニ二円寸志） 五円

計八十二円七十七銭也

内訳 六十六七円七十七銭 奉公会ヨリ補助

十四円ハ四団体ヨリ御供

不足金貳円五十五銭 奉公会ヨリ支出

当日午後一時ヨリノ家族会世話係リ奉仕者

吉村徳太郎・吉村徳三郎・梅田嘉市・吉川幾太郎・

中野利吉・梅田熊治郎・中村兵治・吉村忠治・中村

定治・小島重太郎 以上

【欄外追記】十月二日 晴

豊田木村安治君中支戦線ニ於テ戦死ノ報来ル。

【欄外追記】十月三日 晴午後七時ヨリ各大字世  
 話係ノミ吉村宗一君ノ満中忌ニ参拝。霊前供物ヲ

ナス。

十月八日 晴

午前八時頃現地部隊長ヨリ、池口ミツ宛ニテ池口吉一君セキリニテ病死ノ電報来ル(十月六日死亡)。

十月十一日 晴

午後七時ヨリ池口吉一君初七日ニ各大会員一同参拝ス。池口君宅ハ場所モヨシ、家モ広イノデ全員参拝スルコトニナツタ。

十月十五日 晴

天高く馬肥エ秋晴ノ心持ヨイ秋祭日和。午後二時ニ祈願祭執行。例年ノ通り宮戸ノ御輿ノ渡御ヲ拝シ、御神酒並ニ甘酒ヲ戴ク。

十月十八日 晴

午後七時ヨリ池口吉一君ノ二七日ニ会員一同参拝ス。尚当日池口武治君祖父辰治氏死亡、葬儀ニ参列。香料一封(一円)ヲ呈ス。

十月廿二日 晴

午後八時ヨリ各大会世話係リ参集(龍正寺ニ於テ)。信用組合ヨリ例年ノ通り空俵五〇〇俵会員へ配給アリ。准農家ノミテ平等割ニテ分配ス。サンダワラ一枚付ニテ一俵二十五銭ノ割。今夜茶菓子トシテ肉ウドン十五(一ぱい二十銭)。

十月廿五日 晴

午後七時ヨリ池口吉一君三七日ニ、会員一同参拝ス。

十一月一日 晴

午後七時ヨリ池口吉一君四七日ニ、会員一同参拝ス。

十一月五日 晴

午後二時ヨリ西川清太郎君子息ノ葬儀ニ、小島代

表ニテ参拝ス。香料一円也ヲ呈ス。

十一月八日 晴

午後七時ヨリ池口吉一君五七日ニ、会員一同参拝ス。

十一月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。収穫期ノコト、テ参列者モ少ナカッタ。例年通り年ト共ニ加ル銃後ノ熱烈ナ労力奉仕。只々感謝アルノミ。同夜池口吉一君六七忌ニ会員一同参列ス。

十一月二十二日 晴

午後七時ヨリ池口吉一君満中忌ニ会員一同参拝ス。霊前ニ供物ヲナス(金壹円)。

十二月五日 晴

例年ノ通り銃後奉公会主催ニテ、学校々堂ニ於テ午後一時ヨリ、出征軍人家族ノ慰安演芸大会ヲ開催サレ、午後五時迄心ユクバカリニ楽シク喜ハシク過シ、五時半一同大東亜戦争下決意ヲ新ニナシ解散。尚当日ノ常会ハ休会。

十二月五日 晴

本年度徴兵入隊者全部ノ村銃後奉公会主催主催ノ壮行会ヲ举行サレ、会員一同モ参列ス。

十二月八日 降雨後晴

廻り来ル十二月八日。今日ゾ大東亜戦争一周年ノ記念日ヲ迎フ。畏クモ宣戦ノ大詔ヲ拝シ、一億ガ英米撃滅ノ鋒(?原文金に峯)ヲトツテカラ、満一年。ハワイ急襲、マレー上陸以来ソロモン海戦マデ我皇軍ハ陸、海、空ニ赫々タル戦果ヲアゲテ、大東亜ニ絶対不敗ノ地位ヲ築キ上ゲタノデアル。「帝国陸海軍ハ今八日未明、西太平洋ニ於テ米英軍ト戦闘状態ニ入レリ」。アノ朝初冬ノ静寂ヲ破ル放送ニ、全国民ハ鼻カラ頭ニツキ抜ケルヤウナ感激ヲ覚ヘタ。ソシテ正午前ワレラ全身シビレルヤウナ

アノ感激「大詔」ヲ拝シ、全国民鉄火ノ気魄ヲ盛ッテ「ヤリ抜クゾ」ノ決意ヲ固メタノデアツタ。一億国民ハアノ朝、アノ日ノ感激ヲ新ニシ、コノ一年ヲ静カニ顧ミテ、更ニサア二年目モ勝抜クゾノ大決意ヲ強固ニシナケレバナラナイ。一年ノ輝カシイ大勝ニ驕ルコトナク、承認必謹、大東亜戦争ニ花タシク散ツタ英靈ニ感謝ヲ捧ゲ、戦場精神ニ徹シテ生産ノ増強ト戦争生活ノ実践ニ努メルベキデアル。

本村デモ当日ハ各種団体主催ノモトニ、午前六時一言主神社ニ於テ、大東亜戦捷紀念祈願祭執行。午後一時ヨリ学校々堂ニ於テ、村民大会開催。各有志交々、立ッテ熱弁ヲ振ツタ。

十二月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭及末吉友治君ソロモン海戦（第一次ソロモン海戦）ニ於テ負傷、内地帰還病院入院ニ依ル平癒祈願祭併行。当夜奉公会ヨリ出征軍人一人宛ニテ、慰問品トシテ、各家族ヨリ現地へ送ルヨウニテ、週報（大東亜建設ノ現況一冊）及写真週報一冊ヲ下サレ、各大字世話係ヨリ各家族へ配布ス。

十二月十六日

晴

午後四時半頃、第二十三部隊ヨリ公用文書ニテ役場へ多田吉州、北村正夫君戦死ノ通報来ル。同七時ヨリ各大字世話係小島宅ニ参集。北村君宅へ弔問ニ行ク。総テハ従前通りニ決行。霊前ニ供物（金三円）ナス。

十二月廿一日

晴

多田北村正夫君初忌日ニ割宛大字会員一同参拝。

十二月二十八日 晴

午後七時ヨリ小島宅ニ各大字世話係参集。例年の通り出征兵士へ、会ヨリノ事業報告書及学童慰問文同封発送ス。計発送人員百三十四。

今夜多田北村正雄君二七日ニ、割宛大字会員参拝ス。尚当日午前拾時頃、名柄上田昇君内地病院ニ於テ病死ノ報来ル。当夜多田北村正夫君二七日ニ、割宛大字会員参拝ス。【衍】

十二月卅日 晴

村銃後奉公会ヨリ出征兵士へ歳末慰問トテ各人へ金壹封（豆債権二枚）ヲ下サル。

十二月卅一日

上田昇君初七日参拝。霊前ニ供物ヲナス（金参円）。

忍海村（現御所市）付近での葬列（昭和 17 年頃）



昭和十七八年一月一日 晴  
 聖戦第二年ノ新春ヲ迎へ、意志ヲ新ニ第二年モ頑張ラウトオ互ヒ申合セヲナシ、午前七時ニ一言主神社ニ於テ祈願祭執行。神前ニ餅一重ネ（三升）ヲ献ズ。尚ソレヨリ御所駅発九時十八分ノ列車ニテ、会員一同奈良市高畑護国神社ニ参拝。ソレヨリ春日神社及各神社仏閣ニ参拝。午後六時過ギ一同帰宅ス。

【欄外追記】一月四日 晴 多田北村正雄君三忌日ニ割宛大字会員参拝。

一月八日  
 午後七時ヨリ上田昇君二七日ニ参拝。

一月九日 晴  
 英霊故山ニ還ル。午後四時二十三分御所駅着列車ニテ豊田木村安治君ノ英霊無言ノガイセンヲ各種団体及ビ会員一同並ニ学童揃ッテ出迎フ。

一月十一日 晴  
 多田北村正雄君四七日ニ割宛大字会員一同参拝ス。

一月十一日 晴  
 多田北村正雄君四七日ニ割当大字会員一同参拝ス。

一月十五日 晴  
 午後七時ヨリ祈願例祭執行。会員ノ会費毎月五錢也ヲ六ヶ月分徴集ス。  
 当夜上田昇君三七日ニ名柄会員ノミ参拝ス。

一月二十~~九~~七日 晴  
~~銃後奉公会~~中野両家ヨリ出征軍人家族歳末慰問トシテ、各戸当り物品購入券五枚（一枚五十錢也）ヲ戴ク。

一月廿八日 晴  
 増吉村宗一君ノ英霊故山ニ還ル。御所駅午後二時

四十七分着列車ニテ。無言ノ凱旋。各種団体・学童並ニ会員一同御所駅迄出迎フ。

二月六日 晴  
 多田北村正夫君無言ノ凱旋。御所駅着午後四時二十三分列車ニテ各種団体出迎フ。

二月八日  
 セキヤ吉村清治郎氏妻葬儀ニ香料一円呈。二月三日豊田木村惣一君母堂葬儀ニ香料一円呈ス。

二月十三日 晴  
 名柄西城喜代治君戦病死（金岡病院ニ於テ死亡、十一日）ニ依ル英霊無言ノ凱旋。御所駅着午後五時四十七分着。駅迄各種団体一同出迎フ。

二月十四日 晴  
 各大字世話係一同午後七時ヨリ西城喜代治君霊前ニ参拝。供物（金参円）ヲナス。尚亦各三ヶ大字宛割宛ヲナシ、忌日毎ニ参拝スルコトニセリ。

二月十五日 晴  
 午後七時ヨリ祈願例祭執行。

二月十六日 晴  
 西城喜代治君ノ初七日ニ、午後七時ヨリ~~各大字~~割宛大字会員参拝ス。

二月二十一日 晴  
 二十三日北村・西城両君ノ村葬執行サレルノデ、西城君ノ二七日ヲ繰上ゲ、午後七時ヨリ営マレルノデ、割宛大字会員一同参拝ス。

二月二十三日 曇リ  
 午後一時ヨリ仏式ニ依リ西城喜代治・北村正夫君両君ノ村葬ヲ名柄小学校々堂ニ於テ執行サル。各種団体及ビ会員一同参列。

三月六拾日 晴

増中村英之介君母堂葬儀ニ参列。香料（壱円）呈ス。

尚当日午前九時、村役場へ吉村三郎君ノ原隊ヨリ、於テガダルカナル島ニ名誉ノ戦死ノ公報来ル。当夜各大字世話係小島宅ニ参集。午後七時半ヨリ吉村三郎君霊前ニ参拝。総テハ従前通り実行。

三月十四日 晴

池口吉一君無言ノ凱旋。御所駅着列車ニテ英霊故山ニ還ル。自動車ニテ学校前ニ到着。校庭ニ於テ一同黙禱ヲナシ、八時懐シノ我家ニ声ナキ帰還ヲナス。

三月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。終了後社務所ニ於テ来ル四月三日午後一時ヨリ、各大字神社巡拝ヲ申合ス。

三月十七日 晴

吉村三郎君二七日ニ割宛大字会員一同参拝ス。

三月十九日 晴

午後七時ヨリ各大字世話係リ及名柄会員一同池口克一君霊前ニ参拝ス。

三月廿日 晴

午後一時ヨリ仏式ニ依リ名柄国民校々堂ニ於テ、池口克一君ノ村葬執行サル。各種団体参列。盛会ナリキ（香料二円呈ス）。当日西川徳藏氏死亡。葬儀ニ香料呈ス（壱円）。

【欄外追記】三月廿四日 吉村三郎君三七日ニ割宛大字会員一同参拝。

三月廿六日 晴

午後四時半頃呉海軍人事課ヨリ、寺田安川常雄君戦死ノ公報アリ。各大字世話係リ一同安川君霊前

ニ参拝。霊前ニ供物（金三円）ヲナス。

三月廿七日 晴

安川君初七日ニ割宛大字会員一同参拝ス。

三月卅一日 晴

吉村三郎君四七日ニ割宛大字会員一同参拝。

四月三日 晴曇リ

安川君二七日ニ割宛大字会員一同参拝。当日午後一時学校々庭ニ会員一同参集。各大字神社巡拝。最後ニ一言主神社ニ於テ祈願祭執行、解散。会ヨリ神酒二本（四月一日ヨリ一升三円四十五銭ニ値上ゲ）ヲ献ズ。

四月七日 晴

吉村三郎君五七日ニ割宛大字会員一同参拝。

四月十日 晴

安川君三七日割宛大字会員一同参拝。

四月十四日 晴

吉村君六七日ニ割宛大字会員一同参拝。

四月十七日 晴

安川君四七日、割宛大字会員一同参拝。

四月二十一日 晴

吉村君満中忌、各大字世話係一同参拝。尚霊前ニ供物ヲナス（金壱円）。

四月二十四日 晴

安川君五七日、割宛大字会員一同参拝。

五月一日 晴

安川君六七日、割宛大字会員一同参拝。

五月八日 晴

安川君満中忌ニ各大字世話係一同参拝。霊前ニ供物ヲナス（金壹円）。

五月九日 晴

吐田郷村役場ヨリ出征軍人慰問用トシテ、スルメ二貫三百匁ノ購入券ヲ戴キ、各大字世話係小島宅ニ参集、分配ス（一軒当リ十七匁）。百匁八十五銭、計百二十三軒。

五月十九日 晴

例年ノ通り村出身戦没将兵ノ招魂祭ニ午後一時ヨリ会員一同参列。

五月二十九日 晴

森脇玉置幸一郎君内地病院入院ニ依リ金壹封呈ス。

六月一日 晴

午後三時頃東部第三六部隊長矢後孫二（宇都宮）ヨリ、五月三十一日附ニテ、豊田吉村徳治郎君戦死ノ内報アリ（四月二十日戦死）。午後八時ヨリ各大字世話係一同霊前ニ参拝ス。御供三円。総テハ従前通り。

六月二日 晴

吉村徳治郎君初七日、午後八時ヨリ各大字会員一同参拝ス。

六月九日 曇

午後八時ヨリ吉村徳治郎君二七日ニ各大字会員一同参拝。

六月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭。当日森脇梅田正雄君息死亡。香料一円当該大字世話係ヲ通ジテ呈ス。

六月十六日 晴

吉村徳治郎君三七日ニ各大字会員午後八時ヨリ参列ス。

六月二十三日 晴

午後八時ヨリ吉村徳治郎君四七日ニ各大字会員参列ス。

六月二十七日 晴

豊田吉川好治君南海洋上ニ於テ戦死（六月八日）ノ通報。午後四時役場ヨリ来ル。

六月二十八日 晴

吉川好治君一七日ニ会員一同参拝ス。霊前ニ供物（三円）ヲナス。総テハ従前通り。

六月三十日 晴

吉村徳治郎君五七日ニ会員一同参拝ヲナス。

七月五日 晴

吉川好治君二七日ニ会員一同参拝ス。従来ハ御供物ノ供養ハ物資不足ノ折、又遺家族ノ競争心ヲナサシメザルヤウ、絶対ニ供養ヲセナイコトニナツテキタガ、供物ヲ供養ヲ吉村徳三郎氏ヨリ始メラレ困ツタ事ニナツタ。

七月七日 晴

吉村徳治郎君六七日ニ会員一同参拝ス。

七月十二日 降雨

吉川好治君三七日ニ会員一同参拝ス。

七月十四日 晴

吉村徳治郎君満中忌ニ会員一同参拝ス。会ヨリ供物（金壹円）ヲナス。

七月十五日 晴

午後四時ヨリ祈願例祭執行。尚下半期分ノ会費徴収ス。出支（ママ）ガ多ク下半期ヨリ毎月十銭ノ会費ニテ徴収ス。

七月十九日 雨  
吉川好治君四七日ニ会員一同参拝ス。

七月廿六日 晴  
吉川好治君五七日ニ会員一同参拝。

【貼紙に追記】

七月三十一日

於役場会議室 自二〇.三〇 至二二.三〇

英霊遺族軍人家族会世話役合同協議会申合事項

一、英霊祭記様式統一ニ関スル件

英霊ノ祭記様式ハ時局ニ鑑ミ、努メテ質素且莊嚴ナル様注意シ、而今左ノ条項ヲ守ルコト

1.英霊ニ供スル花環ハ団体関係ノモノ三対迄トスルコト

2.参詣者ニ対スル茶菓子及御供物ハ従来ノ申合事項ヲヨク守ルコト

3.七七日ノ中陰法事終了後ノ祭記ニ就テハ、各遺族ニ於テ適宜簡素ナル祭記ヲ続ケルコト

二、村葬執行ニ関スル件、村当局ト交渉ノコト（鷲尾受持）

1.村葬ハ年三回農閑期ヲ利シテ執行シ（時期ハ村当局ニ一任）、嚴肅且莊嚴ニ全村民挙ツテ参列シテ、英霊ニ対シ礼ヲ失セザル如ク執行セラレ度シ

2.中陰法事完了後モ適宜自宅ニ於テ御遺骨ヲ奉記シ村葬執行ノ時期ヲ待ツコト

八月二日 晴  
吉川好治君六七日ニ会員一同参拝。

八月四日 雨  
午後三時ヨリ小島宅ニ各大字世話係一名宛参集。中野両家ヨリ中元家族慰問トシテ（徴用者モ含ム）物品購入券各五枚宛ヲ分配ス。毎年何日ニ変ラヌ御厚情只々感謝アルノミ。

八月九日 晴  
~~多田~~豊田吉川好治君満中忌ニ各大字会員一同参拝。

会ヨリ供物（壺円）ヲナス。

八月十日 晴  
東名柄中野万太郎君、北支方面（張家口）ニ於テ入院中（病氣）病死ノ報、午後前十一時半頃実家へ部隊長ヨリ通達アリタリ。

八月十一日 晴  
中野万太郎君初七日ニ各大字世話係一同参拝。霊前ニ供物ヲナス（参円）。

八月十六日 晴後雨  
午後一時ヨリ学校々庭ニ各会員一同参集。各大字神社巡拝ヲナシ、最後ニ一言主神社ニ於テ祈願祭執行ス。

八月十六日 晴  
中野万太郎君二七日ニ割宛大字会員参拝ス。

八月廿二日 晴  
村役場ヨリ家族慰問トシテ、氷砂糖二貫七百匁ノチケットヲモラッタガ、世話係一同相談ノ結果、九月十日ノ一言主神社並木参道ノ清掃ノ折ノ分配ニ残スコトニ決シタ。

八月二十三日 晴  
中野万太郎君三七日ニ割宛大字会員一同参拝。

八月三十日 晴  
中野万太郎君四七日、割宛大字会員一同参拝。

九月六日 晴  
中野万太郎君五七日、割宛大字会員一同参拝。

九月十日 晴  
午後一時ヨリ一言主神社々前ニ集合（会員一同）。ソレヨリ神社参道路及社前ヲ清掃、同四時過終了。祈願祭執行ス。神社ヨリ神酒一本。奉公会ヨリ神

酒二本ヲ寄贈。会ヨリ氷砂糖ヲ会員一同ニ少シ  
ヅ、分配ス。

九月十三日 晴  
中野万太郎君六七日ニ割宛大字会員一同参拝ス。

九月十五日 晴  
一言主神社秋季大会ニ付キ、午前十時ニ会員一同  
参拝。

九月廿日  
中野万太郎君満中忌ニ会員一同参拝。会ヨリ供物  
ヲナス（金壺円）

九月廿五日 晴  
本日ノ召集ヲ機ニ軍司令部ヨリ左ノ通達アリ。向  
後絶対ニ厳守ノコトヲ村ヨリ命令アッタ。  
一、召集兵ノ壮行会ハ中止  
一、入営ハ私服ニテ、奉公袋ハ風呂敷ニ包ミテ入  
営スルコト  
一、歓送ハ絶対ニ中止  
一、防諜上召集ニ関シテハ私語ハ絶対ニナサザル  
コト  
一、門先ニ国旗及旗ハ出サザルコト。  
以下略ス。

九月廿九日 晴  
午後七時ヨリ龍正寺ニ於テ、例年ノ通りノ戦死者  
ノ追弔会執行ニ関シ各大字世話係リ参集、協議ヲ  
ナス。  
一、十月八日午後七時励行ニテ追弔会ヲ執行。  
一、（九月廿九日）当夜菓子代二円（吉村取換）

十月八日 晴  
午後七時ヨリ例年ノ通り銃後奉公会、家族会共同  
主催ニテ戦死病者慰霊祭ヲ名柄龍正寺ニ於テ執行。  
別紙ノ通り各種団体会員一同ノ参拝ヲ盛大ニ挙  
行セリ。諸払控別紙ノ通り。遺家族へハ別紙ノ通

リノ案内状ヲ出ス。

十月十五日 晴  
午後一時ヨリ例年通り秋祭りに付き、祈願祭を執  
行。終了後宮戸の御輿の渡御を拝し甘酒ヲ戴いた。

十月廿三日 晴  
増梅田甚三郎君父死亡。香料一円を呈す。

十月廿五日 晴後雨  
午前九時ヨリ学校々庭ニ於テ、豊田吉川好治君の  
村葬ヲ仏式ニ依リ、盛大ニ举行サレタ。各種団体  
及会員一同参列。香料貳円ヲ呈ス。

十一月七日 曇晴  
午前九時四十六分御所駅着列車ニテ、寺田安川常  
治郎君英霊無言ノガイセンヲサル。会員一同御所  
駅迄出迎フ。農繁期ニモ拘ラズ多数ナリキ。

十一月十三日 晴  
増森田智博君祖母死亡。香料一円呈ス。

十一月十九日 晴  
豊田吉村徳治君英霊無言ノ凱旋さる。午前九時四  
十六分着御所駅着列車にて故山に還る。会員一同  
及各種団体御所駅迄出迎ふ。午後七時ヨリ各種団  
体長参拝（霊前）。

十二月八日 降雨後晴  
三度び十二月八日ヲ迎ヘテコ、ニ大東亜戦争第三  
年ハ始マッタノデアル。永ク戦史ニ刻マルベキ、  
宣戦大詔ノ渙発ヲ見タカノ朝ノ感激ハ、イマモー  
億同胞ノ断ジテ忘レ得ナイトコロデアルガ、ソノ  
当時果シテ何人ガヨク二年後ノ現在ニオケル、大  
東亜戦争ノ実情ヲ想像シ得タデアロウカ。思ヘバ  
コノ満ニヶ年コソハ、ワガ帝国ガ悠久二千六百年  
ノ歴史ヲ集約シ、万那無比ノ国運ヲ傾ケテ大経綸  
ヲ四海ニ示シ、大義ヲ世界ニ布カンタメノ一大飛

躍ヲ決行シタ時期ニ外ナラナイ。ソロモン・ギルバートト反攻戦略ヲ進メ来ツタ敵軍ハ、ツイニ我が内南洋マーシャル方面ニマデ忍ビヨラントシテキルノデアリ、交戦ハイツ果ツベシトモ思レナイガ、最後ノ勝利ハ常ニ正義ニ与スルコトヲ十分ニ知ルノデアル。

此ノ朝吐田郷村ニ於テモ、各種団体及学童・村民ハ、午前六時ヨリ一言主神社ニ於テ、完勝必遂ヲ祈願並ニ武運長久祈願ヲナシ、併セテ英霊ニ感謝ノ黙禱ヲナセリ。

十二月十五日 曇り

午後一時ヨリ名柄国民学校々庭堂ニ於テ、豊田吉村徳治・寺田吉川常雄両君ノ村葬ヲ、仏式ニ依リ執行。各種団体及会員一同参列。盛大ニ举行サル。各式円香料ヲ呈ス。

十二月十八日 晴

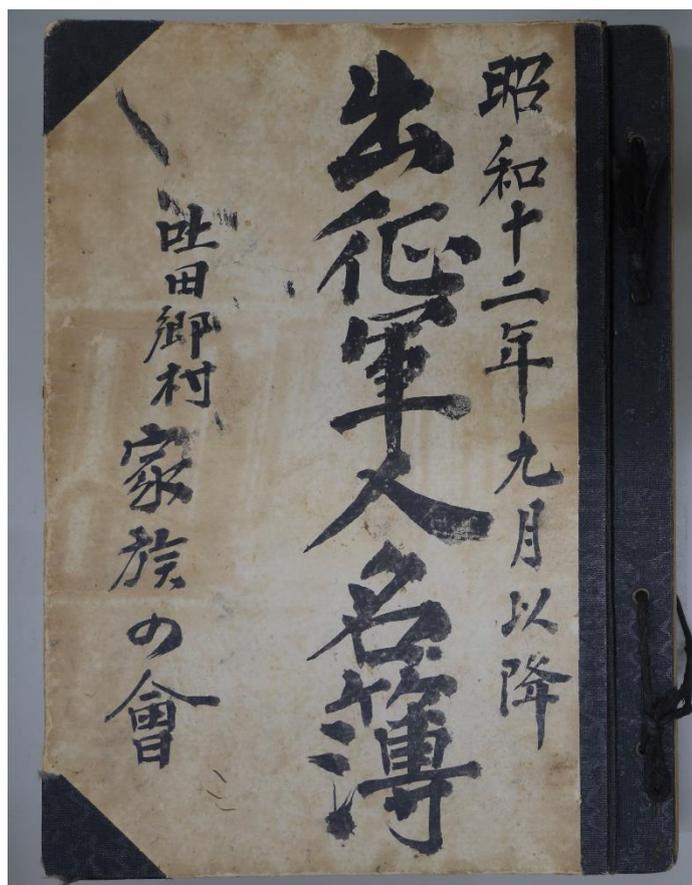
午後一時ヨリ村銃後奉公会主催名柄国民学校々堂ニ於テ、出征軍人・応徴士・遺家族ノ慰安演芸大会ニ招待サレ、村長ヨリ心カラナル慰安・激励ノ言葉アリ。午後四時過万歳三唱、明日ヘノ希望ニ燃ヘツ、解散。

十二月二十五日 晴

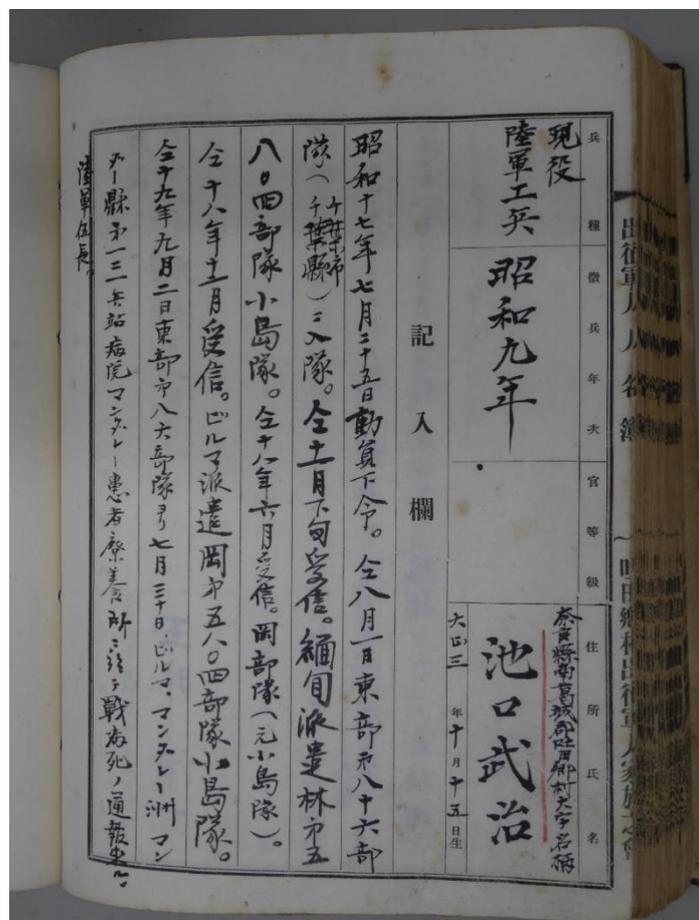
午後七時ヨリ各大字世話係一同小島宅ニ参集。毎年ノ事業報告及学童慰問文ヲ封入、各出征軍人ニ郵送ス。印刷ハ鷲尾氏が受持ッテ当日迄近々仕上ゲテ下サツタ。人員百六十七名。

十二月二十九日 晴

中野両家ヨリ例年ノ通り、歳末家族慰安トシテ物品購入券各戸ニ五枚宛（一枚五十銭）ヲ戴ク。同村銃後奉公会ヨリ出征軍人慰安トシテ各人宛ニ一円預蓄債券式枚宛ヲ戴ク。



約 450 人の日中戦争開始後（それ以前に入営者も含む）の軍歴が記されている。右の池口は岡 5804 部隊（鉄道第 5 聯隊）に配属、ビルマで戦病死。戦死・戦病死者には名前に朱線または×印がある。



一月一日  
昭和十九年  
【無記入】

一月五日 晴  
午後一時ヨリ各大字世話係リ龍正寺ニ参集。種々協議ヲナシ、終了後新年宴会ヲ催シ八時解散。

一月十五日 晴  
午後一時学校々庭ニ会員一同参集。各大字神社巡拝ヲナシ、最後ニ一言主神社ニ於テ祈願祭ヲナス。例年通り鏡餅一重及ビミカン五貫目供献ズ。

一月卅日 晴  
寺田高橋淳一郎君、ニューギニア東部戦線ニ於テ負傷（昭和十八年十月二十二日）内地帰還入院ニ依ル見舞金一円也ヲ呈ス。

二月十日 晴  
東名柄米田太七郎君父死亡。香料一円也ヲ呈ス。

二月十五日 晴  
午後七時ヨリ祈願例祭執行。

三月十五日 晴  
午後七時ヨリ祈願例祭執行。

三月二十二日 降雨後晴  
午後三時ヨリ村壮年団主催ニテ万才・浪曲大会ヲ校堂ニ於テ開催。家族会慰安招待アリ。午後六時閉会。

四月三日 晴  
多田八川亀蔵氏死亡。香料壱封（壱円）呈ス。

四月十三日 晴  
村銃後奉公会ヨリ家族会へ氷砂糖一貫五百匁ヲ戴ク。

四月十五日 晴  
午後七時ヨリ祈願例祭執行。

四月十七日 晴  
関屋中島幸治君母堂死亡。香料一円呈ス。

四月廿一日 晴  
午前七時学校正門ヲ出発。各大字神社巡拝ヲナシ、同十一時一言主神社ニ於テ祈願祭ヲ執行。会員一同役場ヨリ戴イタ氷砂糖ヲ少々ツヅ分配ヲナス。当日ハ一言主神社春季大祭ナリキ。

【欄外追記】四月廿八日 晴 県商業奉仕会主催家族慰問演芸ノ招待アリ。午後一時ヨリ御所国民校々堂ニ行ク。

五月六日 晴  
豊田吉村正一郎氏息死亡。香料一円呈ス。

五月十五日 晴  
午後七時半ヨリ祈願例祭執行。並ニ宮戸島田三蔵君、内地病院（台湾）入院、平癒祈願祭ヲナシ、見舞金壱円也ヲ呈ス。当日東名柄中野栄吉死亡。香料壱円呈ス。

五月十九日 降雨後晴  
午後一時ヨリ名柄校々堂ニ於テ、村銃後奉公会主催ニ依ル例年ノ通り招魂祭執行。会員一同参列、盛大ニ举行サル。

五月二十日 曇り後雨  
午後四時三十分御所駅着ノ列車ニテ、豊田吉村三郎君ノ英霊故山ニ無言ノ凱旋センサル。駅迄会員一同モ出迎フ。尚当夜ハ各大字世話係ノミ参拝ス。

五月二十二日 晴  
午後一時ヨリ仏式ニ依リ名柄校々堂ニ於テ、豊田

吉村三郎君ノ村葬ヲ挙行。各種団体及会員一同参列。盛大ナリキ。香料一円呈ス。

六月十五日

午後八時ヨリ祈願例祭及ビ東名柄丸山嘉十郎・豊田吉村治男君内地病院入院ニ依ル病氣平癒祈願ヲモ併行。会ヨリ見舞金各一円也ヲ呈ス。併セテ吉村孝雄君戦地病院ニ於テ入院ニ依ル平癒祈願モナス。

六月廿五日 曇リ

多田吉川久治氏死亡。香料壹円呈ス。

七月十五日 晴

午後八時ヨリ祈願例祭執行。六十年来ナキ干天続キ未ダニ植付ケモ終ラズ、百姓ノ人達モ毎晩夜通シノ水入レダ。ソレデモ時局ヲ認識シテ不平モ云ハズニ増産ニ涙グマシイ努力ヲ続ケテキル。

七月十六日 晴

東名柄前田重平君死亡。香料ヲ呈ス。

八月十三日 晴

村銃後奉公会ヨリ中元慰問トシテ金貳円宛下サル。

八月十五日 晴後雷雨

祈願例祭ハ大雷雨ニヨリ参拝取消シヲナス。中野両家ヨリ中元慰問トシテ物品購入券五枚宛（一枚五十銭、一家族ニ対シ）ヲ戴ク。

八月廿二日 晴後雨

午後四時各大字世話係参集。役場・中野両家へ代表シテ慰問ノ礼ニ行キ（中元）、引続キ小島宅ニテ晩食後、慰霊祭ノ協議ヲナシ大体例年ノ通りニテ執行。

八月廿四日 晴

東名柄中野延夫戦病死。午後八時ヨリ各大字世話

係参拝、霊前供物（金三円）。

九月一日 晴

午後八時頃東部第八十六部隊長ヨリ速達便ニテ、池口武治君、マンダレー（ビルマ国）第一二一兵站病院マンダレー患者療養所ニ於テ、病死ノ内報来ル。

九月二日 晴

午後八時ヨリ各大字世話係参集。池口武治君霊前霊前ニ参拝。供物三円ヲナス。

九月六日 晴

午後六時頃役場ヨリ豊田山本幸治君戦病死ノ内報アリ。各大字世話係参拝。霊前ニ供物ヲナス（金三円也）。

九月十日 晴

午後一時ヨリ各会員一言主神社前ニ参集。参道路ノ清掃ヲナス。終ッテ祈願祭執行。四時頃一同解散ス。

九月廿日 晴

増木村安治君祖父死亡。香料一円ヲ呈ス。

九月廿五日 晴

東名柄蒲生君父死亡。香料一円呈。

十月十五日 晴

例年ノ通り午後一時参拝。宮戸大字神輿渡御ヲ拝シ甘酒ヲ戴ク。在郷軍人銃剣術奉納試合モアリ盛大デアッタ。

十月十六日 晴

増吉村富三郎氏死亡。香料一円呈ス。

十月二十一日 晴

東名柄中野万太郎・寺田北村稔君両勇士ノ村葬、

名柄校々堂ニ於テ仏式ニテ挙行サル。会員一同参拝。各香料二円呈ス。

十月二十六日 晴

午後七時ヨリ各大字世話係リ参集。廿八日午後一時学校出発各大字神社巡拝ノ議決ス。

十月二十八日 晴

午後一時学校々庭ニ会員一同参集。各大字神社巡拝ヲナス。一言主神社及関屋ノ宮様ニミカンヲ供へ、後会員一同戴ク。

十月三十日 雨後晴

午後一時ヨリ名柄校々堂ニ於テ、村銃後奉公会主催ニテ出征及遺家族ノ慰安演芸大会アリ。会員一同招待サレタ。夕暮迄時ヲ忘レテ楽シク半日ヲ過シタ。

十一月一日 晴

十月三十日部隊ヨリ(所属)内報アリ(奥清太郎君ノ戦死)。各大字世話係一同午後七時ヨリ参拝ヲナス。

十一月三日 雨

関屋西芝勝治君子死亡。香料一円呈ス。

十一月四日 晴

豊田駒谷勘治君戦死ノ内報(七月三日)。霊前ニ供物ヲナス(三円)。

十一月六日

東名柄中野四郎、七月三日黄海方面ニ於テ戦死ノ内報来ル。詳細不明。

十一月四日(ママ) 晴

豊田花岡繁司氏ヨリ金貳拾円也ノ篤志寄附ヲ受ク。

十一月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭執行。

十二月十五日 晴

午後七時ヨリ祈願例祭。

十二月二十五日 晴

村銃後奉公会ヨリ家族宛各貳円(各一人当り)ヲ戴ク。

十二月卅日 晴

中野両家ヨリ家族各軒当り例年通り慰問金各貳円五十銭(五十銭券五枚)ヲ戴ク。

昭和二十年

一月一日

午前九時ヨリ祈願祭執行。会ヨリ鏡餅一重(三升)みかん五貫目ヲ献供ス。十五日例祭取消シ。

一月三日 晴

午後七時ヨリ各大字世話係参集。中野皖司氏入営(一月五日、第三十部隊)。餞別トシテ金三十円也(会ヨリ)ヲナスコトヲ決ス。吉村徳太郎・中村定治・池口光治・中野新十郎・梅田熊吉氏等代表ニテ中野家へ祝ニ行ク(一月四)。

一月五日

モリワキ吉川ウメノ息戦死。御霊前供物ス(三円)。

【以下記載なし】

## 全期間を通しての付論 1

### 戦病死者の供養、

#### 四十九日までの各忌日供養について

#### はじめに

以前の解題でも若干触れているが、吐田郷村出征軍人家族の会にとって、会員の身内たる戦死者あるいは戦病死者の供養は、重大な会の事業であった。特にここでは、記録全体を通して、四十九日までの忌日を取り上げてその変化をみていきたい。

ただ、吉田裕が『日本軍兵士』中公新書、2017の序章で試算したように、日中戦争・太平洋戦争での日本軍戦死者230万人の約9割は、昭和19年以降の、終戦にほど近い時期のものである。しかし、吐田郷村出征軍人家族の会の記録は、昭和20年冒頭で終わっており、戦局が絶望的になり、各地で玉砕が繰り返された時期の多くを欠いている。

しかし、戦死者数が指数関数的に増加し、輸送の途絶やより顕著になる諸物資の軍需へ振り向けにより、銃後の生活が苦しくなった時代、それまでのような戦没者慰霊が続けられたとは到底思えず、現にこの記録でも、昭和18年頃からその前兆が見えだしている。そうした意味で、やや語弊のある言い方になるが、ここで扱われている戦死者は、その直後に地域によって丁寧な弔いを受けた相対的に「恵まれた」戦死者ということになる。

#### 1. 昭和12・13年（第64回紹介分）

まず吐田郷村にとっての最初の戦死者は、昭和13年2月8日に家族会員が通夜に参加し、12日に村葬が行われた浅田清治である。しかし、記録者小島重太郎がわざわざ「生前ハ吐田郷村ニモ居住サレズ、知人モ友人モナク」と記しているように、後の合同慰霊祭でも浅田のみは判明しなかったためか、「贈名」こと戒名が記されていない。

続いて8月31日には、名柄の吉村忠雄が戦病死したとの報が入った。記録に戦死日の記載はないが、会の『出征軍人名簿』（以下名簿と略記）によると、8月25日中国安徽省で後送途中赤痢による死亡という。

当時の葬送風習として、死後七日目の初七日と四十九日（満中陰）の間に、七日おきに行われる忌日供養（通夜）

があった（「初七日」『民俗学小事典死と葬送』吉川弘文館、2005）が、吉村の戦死を受け家族の会でも、9月1日に「初七日（九月二日）ヨリ毎忌日毎ニ、各大字世話掛リハ必ず参拝、外会員有志モ参拝」すると申合せを行った。9月2日こそ記録には見えないものの、9日には二忌日・16日に三七日、23日に四七日、30日に五七日、1回を飛ばして10月13日の満中忌に家族会員一同等で参拝したとの記録が見える。

この年の夏から続いた武漢攻略戦のなかではその終盤に村出身者の戦死の報が相次いだ。10月25日に関屋の中島清治、30日には寺田の森一義、多田の北村芳春である。報はたて続けだったが、それぞれの戦死日には幅があった。それに伴って忌日供養のやり方はさまざまであった。

森の戦死は9月26日で、以後の法要は戦死通知日の10月30日を起点に11月4日に初七日、11日に二七日、18日に三七日、25日に四七日、12月2日に五七日、9日に六七日、16日に七七日と続いており、それぞれ家族の会会員が参加したとある。

北村は10月6日戦死で、森と同様通知日を起点としたものの、初七日は11月5日、二七日は12日と各1日ずれ、18日に四七日、21日に五七日、24日に六七日、27日に七七日を行った。その理由として、「戦死後三ヶ月ニ互ルノデ繰り上げ三日目毎ニ御通夜」と11月18日の記録にある。

10月19日の戦死が25日と、比較的すぐに伝えられた中島の場合は、31日に二七日、11月7日に三七日、14日に四七日、21日に五七日、12月5日に七七日と、命日を基準とした供養が行われている。遺骨帰還は森・北村が12月24日で、吉村が26日だが、中島は記録に見えない。御所駅で遺骨引渡と読経、出迎えがあり、名柄小学校までの約4キロを葬列行列で帰還し、この風習は後にも続いた。なお、吉村と3人の村葬は12月30日に行われている。

#### 2. 昭和14・15年（第65回紹介分）

家族の会としては、これら戦死者の忌日供養に出席を呼びかけ、記録者小島もこうした記載がある日には実際に出席したと考えられる。が、こうした遺族の心情や考え方に左右されて設定される忌日供養は、この時のように立て続いた際には、参加する会員側にとっても負担になり、かつ

遺族側にとっても会場となる自宅の収容力の問題があった。翌14年9月8日に森脇の宮阪治雄の戦病死（8月29日マラリアによる）が伝えられた際には、「宮阪君ノ霊前参拝ハ忌日（三七日・五七日・七七日）ニ限り各大字三ヶ大字宛ニテ参列」という申合せがなされた。

後段の村内9大字を3分し輪番で各忌日に参加するという方法は定着していくが、前段の参拝を七五三の忌日に限るという申合せは守られなかった。命日からほぼ14日後の9月11日に行われた二忌日には、宮阪の出身大字森脇を含む3大字の家族の会会員が霊前参拝したとの記載が見えるし、以後の戦死者も七五三以外の忌日参拝が見える。宮阪の場合、遺骨が9月28日に到着したため、10月2日に村葬が行われることになり、これにあわせて9月30日から10月1日までの3日間で四十九日までの供養が前倒しされている。

昭和15年1月12日には、梅本良一戦死の報が入った。名簿によれば名柄の人で前年12月24日中支江南戦線での戦死という。公報到着日を起点に1月18・25日、2月1・15・22日に、初七日・二忌日・三忌日・五忌日・六忌日にそれぞれ割宛大字会員が参拝したと記録に見え、2月29日の七忌日には、各大字の世話係一同が参拝、3月5日には、御所駅に遺骨を出迎え、名柄小学校校庭忠魂碑前で読経が行われた後、自宅へ向かった。

6月14日には、有江一男が6日に戦病死したと役場に連絡が入り、これが翌日家族の会にも伝えられ、忌日参拝の割宛大字が決定された。命日を起点に、6月18・25日、7月2・9・16日の二～六忌日、23日の満中忌に割宛大字会員が参拝したと記されている。遺骨は9月15日着、18日に村葬が行われた。

8月22-28日には、桜井健治（次）の遺骨出迎えや告別式等の記載が見えている。

9月25日には、戦争開始以来の戦死者の合同慰霊祭が行われているが、対象となったのは桜井健次・北村芳信・中島清一・森一義・梅本良一・有江一男・宮阪治雄・吉村忠雄・北村（仲川）吉雄・橋重太郎・浅田清治の11名である。

このうち、橋重太郎は、それまでの記録に名が見えない。それでも贈名は記されているので、本人や家族は寄留等で村外に生活の拠点を置いていたものの、贈名を家族の会に

伝える縁者は村内にいたということであろう。

### 3. 昭和16・17・18・19年（今回紹介分）

戦争が続く中で、戦死や戦病死とは異なる犠牲者も生まれるようになり、家族会はこれらに対しても対応を迫られた。

昭和16年7月22日に多田の北村利一の京都陸軍病院青谷療養所での死が伝えられた。北村は名簿によれば、大正7（1918）年生まれで、昭和14（1939）年3月に現役の飛行兵として満洲の部隊に入隊するが、6月7日に負傷する。傷は相当重かったようで、その年の10月に兵役免除となり、11月の段階では、京都青谷傷痍軍人療養所に入っている。つまり、死亡の段階で2年以上青谷での闘傷生活を送っていたことになる。戦闘に起因する死でも、現役軍人としての死でもなく、公式には戦死扱いは受けない。家族会は、満中忌等への霊前供物はしないものの、世話係が通夜と葬儀には出席することとした。

次に兵士以外の勤務に動員された徴用者が徴用先で死亡する場合もあった。昭和17年6月28日には、徴用されていた森脇の梅田延太郎がフィリピンで死亡したとの報が入った。7月5日の申合せで、忌日参拝は初七日・三七日・満中忌の3回、3大字ごとに3名が参拝、葬儀と遺骨出迎えの際には戦死者同様に会員一同が参加すると決められており、戦死者に準じる扱いを受けることが決められたが、その後の記録に記載がなく、実際は不明である。

こうしたケースを挟んで、なおも村出身兵士の戦死・戦病死は続いていく。昭和16年10月9日には植田忠治が呉海軍病院にて戦病死の報が入った。村出身では初めて海軍での死者となる。10月13・21・11月4・11・18・25日に初七日から満中忌までが行われ、大字輪番で家族会員も参列した。10月28日にあったはずの三七忌の記載が見えないが、この日は家族の会の村内神社巡拝日だったため、植田宅前で参加者が黙祷を行っている。12月17日遺骨帰還、18日村葬が行われた。

アメリカ・イギリス等との戦争が始まり、当初は華々しい戦果が伝えられていた昭和17年前半には、村出身兵士の戦死の報は届いていない。

が、前述の6月末徴用者梅田の死の報に続いて、なおも

続いていた中国との戦争で、8月18日に、増の吉村宗一が5月20日に戦死したの報が入っている。従来通り3大字ごとに各忌日参拝が決められ、8月22・29日、9月5・12・19・26日に各忌日が執り行われた。10月3日の満中忌には各大字世話係のみ参拝となり、遺骨帰還は翌18年1月18日だった。

さらに10月8日、現地部隊から直接自宅に6日に池口吉一が戦病死したとの電報があった。名簿によれば、池口は名柄の人で、中国江南省においてアメリバ赤痢による死亡である。10月11日の初七日には、「池口君宅ハ場所モヨシ、家モ広イノデ全員参拝スルコトニナツタ」とある。ついで18・25、11月1・8・15・22日の満中忌まで、割宛大字ではなく「会員一同」の参拝があったと記録に見える。3月14日遺骨帰還、20日村葬。

12月16日には多田の北村正雄（夫）の戦死（名簿によれば内モンゴルにて12月6日）、28日には名柄の上田昇が当日内地の病院で戦病死したと伝えられた。北村の場合は21日が初七日で、翌18年1月11日の四七日まで割宛大字会員が参拝したとあり、2月6日に遺骨が御所駅に到着した。

やや繰り上げて12月31日の初七日と1月8日の二七日には、単に「参拝」、15日の三七日には「名柄大字会員ノミ」参拝したという。この2人の場合、四十九日に至る会員参拝は記録に記されていない。

昭和18年に入ると、戦局の悪化を受けて、記録の記載は、戦死の公報到着・忌日参拝・遺骨到着・村葬といったものがかなりを占めるようになる。2月13日、名柄の西城喜代治が11日に戦病死との報。16日初七日、21日二七日、23日北村とともに村葬が行われた。名簿によれば朝鮮で病を得て内地病院における戦病死（但し現役免除後）である。

3月10日には吉村三郎ガダルカナルで戦死の報が入る。初めての太平洋戦線における村出身者の戦死である。吉村は豊田の人で旧姓市川、戦死は前年9月12日というから、半年を経過しての報である。それから一週間も経ない3月14日に遺骨は帰還し、3月17・24・31、4月7・14・21日に二七日～満中忌、割宛大字会員参拝。

3月26日には寺田の安川常雄戦死の報が続く。名簿によれば1月30日ソロモンにおける戦死で、3月27日初七日、

4月3・10・17・24日、5月1日の二七～六七日に割宛大字会員、8日の満中忌に世話係一同が参拝した。戦死が伝えられるまで時間があつた場合、これまでは、通達から7日を数えて初七日を行う例が多かつたが、安川の場合、通達翌日に初七日が行われている。以後はこのパターンが通例化する。

6月1日、豊田吉村徳治郎、4月20日戦死の報。名簿によればニューギニア沖での戦死で、遺体収容はできなかったという。翌6月2・9・16・23・30日、7月7・14日に、初七日～満中忌。割宛大字ではなく各大字会員参拝とある。

6月27日吉川好治が8日に南海洋上で戦死の報。名簿によれば豊田の人。翌28・30日、7月12・19・26・8月2・9日に一七日～満中忌に会員一同参拝。たて続けに、太平洋方面での戦死が続いた。ちなみに、7月5日の二七忌には、「従来ハ御供物ノ供養ハ物資不足ノ折、又遺家族ノ競争心ヲナサシメザルヤウ、絶対ニ供養ヲセナイコトニナツテキタガ、供物ヲ供養ヲ吉村徳三郎氏ヨリ始メラレ困ツタ事ニナツタ」という記載がある。遺家族からの会員に飲食の提供があつたということであろう。ちなみに、解説で触れている出征軍人家族の会と、英霊遺家族会の合同協議会で申合せがなされたのもこのころである。

昭和18年8月10日、同日北支で東名柄の中野万太郎戦病死の報があつた。翌11日に初七日、16・23・30日9月6・13・20日に二七日から満中忌に割宛会員が参拝したとの記事が見える。

但し、昭和18年10月以降、記録が途切れる昭和20年冒頭まで、村葬や遺骨出迎えの記載はあるものの、忌日供養に会員が出席したとの記事は、一切見られなくなる。何らかの申合せで中止されたのか、それとも記録に記載がなだけで、実際には続けられていたのかは不明である。

## おわりに

繰り返しになるが、冒頭の吉田裕の指摘のように、これらは日中戦争・太平洋戦争の戦死者のうちの「はじめの一割」のものである。以後のより多くの戦死者は、手厚く扱われることもなく、占領期には軍人・遺族恩給の停止等元兵士やその家族にとって、苦しい日々が続いた。さらに行われた町村合併は、従来の軍事援護の単位であつた町村を

より遠いものとした。

靖国神社問題を見てもわかるように、日中戦争・太平洋戦争の戦死者をどう扱うかという問題は、戦後一世紀近くを経てもなお、コンセンサスがない状態である。地域にとっても、戦後改革が進められていく中で、不遇の戦死者遺族をどう遇していくべきかは、戦争がもたらした大きな課題のひとつであり続けた。

## 全期間を通しての付論2

### 関係諸団体名索引

出征軍人家族の会へは村内外の様々な団体から金品の援助が寄せられており、その分配も会の事業のひとつの柱となっていた。また、他団体と協力して事業を行った例も多いので、記録全期間を通して、名が出てきた団体名の索引を作成し、簡単な解説も付けた。

#### 索引の見方

〇〇会：

16.11.8/12.1,8 17.1.1

〇〇会の記載が昭和16年11月8日・12月1日・8日・17年1月1日に記載が見えることを示す

#### 凡例

- ・軍の部隊名、社寺名、中央の団体名は採録していない
- ・村内組織の場合は「吐田郷村」を略している

#### あ行

**英霊遺族軍人家族会**：戦死者の家族で構成され、会員は家族の会会員から移行する形になったであろうが、いつ結成されたかは不明。

18.7.31

#### か行

**軍人後援会**：単に後援会とも。銃後奉公会と改組された。

12.10.27, 11/12.14 13.1.5/2.21/4.11, 21/11.12

14.1.18/2.23

**軍友会**：

12.12.14 13.7.20/8.15/10.15/11.15/12.15 15.5.19  
16.9.4 17.10.2

**警防団**：戦前には公営消防署が存在するのは大都市のみで、他ではボランティアによる消防組が消防活動を行っていた。この消防組は空襲があった際への対処のため、全国的に警防団に改組された。消防団の前身。

16.12.1 17.8.26, 30/10.2

**国防婦人会**：国婦とも。軍の指導で組織された婦人組織で、内務省系列の愛国婦人会とは別組織だったが、後に統合して昭和17年大日本婦人会となった。県組織については、第57回「愛国と国防の相克」でも扱っている。

13.9.18 15.5.19 16.3.10/9.4/11.8

#### さ行

**在郷軍人分会**：国レベルでは日露戦後に帝国在郷軍人会として組織されており、その町村支部。単に分会とも。在郷軍人とは、いわゆる赤紙で召集対象となる予備役・後備役・補充兵といった軍人のこと。普段は軍の外で生活するが、定期的に訓練（簡閲点呼）を受ける必要があった。この点では現在の予備自衛官に近い。県組織については、第26回「大和錦 帝国在郷軍人会奈良支部の活動」でも扱っている。

12.12.14

13.4.15/5.1, 19/6.15/8.1, 14, 15/10.15/11.15/12.15

14.1.15/6.3 15.5.19/9.25 16.9.4 17.10.2

19.10.15

**信貴山講**：虎で知られる信貴山朝護孫子寺（しぎさんちようごそんしじ）参拝を目的とした信仰組織。

16.9.18

**昭和会**：昭和10-12年の間存在した親軍国政政党にその名がある。家族会結成時にはすでに解散していたが、あるいは、その支部組織が吐田郷村には残存して活動していたのであろうか。

12. 11. 1, 15 13. 1. 5/12. 3

### 女子青年団

13. 11. 3 16. 11. 4

**消防組**：警防団の項を参照。

13. 12. 1

**銃後奉公会**：軍事扶助の担い手として全戸を組織する形で全国的に整備された。吐田郷村においては、軍人後援会が改組して成立したため、改組当初はしばしば軍人奉公会と誤記されている。

14. 1. 18/2. 14/7. 8 15. 2. 5, 13/4. 8

15. 5. 19/8. 10/10. 1/11. 3, 15, 28/12. 1

16. 1. 8, 25/3. 20/4. 1, 8/6. 3/7. 29/8. 5, 13, 23/9. 20/10. 28/  
12. 18, 28

17. 3. 15/8. 22, 26/10. 2/12. 5, 25, 30 18. 9. 10/10. 8/12. 18

19. 4. 13/5. 19/8. 13/10. 30/12. 25

**信用組合**：昭和3年に結成され、当時の正式名称は吐田郷村信用販売購買利用組合だが（『奈良県農業協同組合三十年史』1981）、この日誌ではすべて単に信用組合と書かれている。農協の前身。

12. 9. 21 13. 10. 8 14. 2. 11/2. 23/12. 22

15. 2. 5, 13/10. 29 16. 1. 25/6. 1, 10/10. 25/12. 28

17. 5. 21/8. 15/10. 22/12. 5

**水難救済協会**：全国組織としては明治23年結成され、海上災害時のボランティアを組織する。広く集めた会員の会費で活動費を賄うという点では、赤十字社に近い性格もあった。現存。

17. 8. 26, 30

**青年団**：江戸時代以来の若者組の流れをくむが、内務省や文部省によってしばしば再編が試みられた。町村単位に組織されたが、旧来の村すなわち大字単位での活動の方が活発だったケースも多い。

12. 11. 3 13. 11. 3 16. 3. 20

豊田大字青年支部 13. 7. 24

### な行

**奈良県商業奉仕会**：記録にはこうあるが、戦時統合により、各種業界団体や労組を統合して組織された奈良県産業報国会（商業報国会も前身のひとつ）を指すと思われる。

19. 4. 28

**中野一族会**：中野本家及一党、中野一統、中野両家、単に中野家とも。名柄の米穀商・山林地主。古文書として経営帳簿を中心とする名柄村中野家文書を図書情報館で所蔵している。

13. 1. 23, 25 3. 29/5. 4/8. 27 14. 2. 15, 23/8. 15

15. 2. 5, 13/8. 10 16. 1. 25/8. 18, 23 17. 2. 13/8. 15, 26

18. 1. 27/8. 4/12. 29 19. 8. 15, 22/12. 30 20. 1. 3

**日本婦人会**：国防婦人会の項で説明した大日本婦人会の村支部を指すと思われる。

17. 10. 2

### は行

#### 花園新聞舗

14. 1. 1/4. 23

#### 仏教聯盟

16. 7. 7 17. 9. 4

**堀富合資会社**（堺市）：明治18年梱包資材販売業として開業、製造業にも参入し大正7年堀富商工株式会社に改組、現存する同社の関連会社か。同社は大正期から堺市に幼稚園や養老院を寄贈するなど、社会貢献活動が活発だった。

13. 10. 16, 20, 22

### ま行

#### 南葛城郡町村長会

14. 12. 25

戦争体験文庫過去の展示一覧		
回次	期間	展示テーマ
第15回	平成20年10月1日～12月27日	子どもたちが見た満州1 満州修学旅行
第16回	平成21年1月6日～3月29日	子どもたちが見た満州2 満州建設勤労奉仕隊・満蒙開拓青少年義勇軍
第17回	平成21年4月1日～6月28日	戦争と食べもの1 米の配給と供出
第18回	平成21年7月1日～9月29日	戦争と食べもの2 野菜
第19回	平成21年10月1日～12月27日	戦争と食べもの3 調味料
第20回	平成22年1月5日～3月30日	戦争と食べもの4 代用食
第21回	平成22年4月1日～6月29日	就職先としての軍隊 海軍志願兵
第22回	平成22年7月1日～9月29日	進学先としての軍隊 陸軍士官学校、海軍兵学校
第23回	平成22年10月8日～12月26日	工廠 国営兵器工場
第24回	平成23年1月5日～4月17日	貯蓄報国
第25回	平成23年4月19日～6月29日	大和の隣組 戦争を支えた地域組織
第26回	平成23年7月1日～9月29日	大和錦 在郷軍人会奈良支部の活動
第27回	平成23年10月1日～12月27日	産業組合から農協へ 戦時・戦後の協同組合の再編
第28回	平成24年1月4日～3月31日	赤十字 その成り立ちと展開
第29回	平成24年4月1日～6月28日	8.15で終わらなかった戦争 日赤奈良班看護婦の手記から①
第30回	平成24年6月30日～9月27日	灼熱の陽の光の下で 日赤奈良班看護婦の手記から②
第31回	平成24年9月29日～12月27日	病院船の上で 日赤奈良班看護婦の手記から③
第32回	平成25年1月5日～3月28日	原爆の惨禍を目のあたりにして 日赤奈良班看護婦の手記から④
第33回	平成25年3月30日～6月27日	かるたで読む「戦陣訓」
第34回	平成25年6月29日～9月29日	小学生国史受験かるたの世界
第35回	平成25年10月3日～12月27日	大淀町学校支援地域本部 戦争カルタの世界
第36回	平成26年1月5日～3月27日	愛国百人一首を読む
第37回	平成26年3月29日～6月26日	日本統治下サイパンの日常から戦争へ 須藤氏手記1
第38回	平成26年6月28日～9月28日	爆撃の中の逃避行 須藤氏手記2
第39回	平成26年10月1日～12月27日	壕からかいまみた日本兵と米兵たち 須藤氏手記3
第40回	平成27年1月6日～3月29日	極限の日々から 須藤氏手記4
第41回	平成27年4月1日～9月27日	あの日から70年 追想の8.15
第42回	平成27年10月1日～28年3月30日	進駐軍と奈良 <i>Occupied Nara</i>
第43回	平成27年4月1日～7月19日	昭和15(1940)年、紀元2600年祭 -あなたは知っていますか?-
第44回	平成27年7月20日～11月30日	「奈良連隊」がいた光景
第45回	平成28年12月1日～29年3月30日	陸軍少年兵
第46回	平成29年4月1日～7月27日	戦勝記念図書館の記憶/記録
第47回	平成29年7月29日～12月27日	鉄道連隊
第48回	平成30年1月5日～3月29日	民博所蔵戦時債権の世界
第49回	平成30年3月31日～8月30日	陸軍特別大演習 於奈良・大阪
第50回	平成30年9月1日～12月27日	日清・日露戦争と奈良(「明治150年大和から奈良へ」の一部として)
第51回	平成31年1月5日～4月30日	昭和8年12月23日「祝皇太子殿下御生誕」の時代
第52回	令和元年5月1日～8月29日	墨塗り教科書
第53回	令和元年9月1日～2年2月27日	聯隊区司令部
第54回	令和2年2月29日～6月28日	日中戦争
第55回	令和2年10月1日～3年1月28日/30日～4月29日	昭和13年の第3機関銃中隊1,2 ～部隊陣中日誌から
第57回	令和3年7月1日～10月28日	愛国と国防の相克 ～国防婦人会奈良本部と「大和婦人」
第58回	令和3年10月30日～4年2月24日	昭和13年の第3機関銃中隊3 ～部隊陣中日誌から
第59回	令和4年2月29日～6月29日	「奉祝国民歌紀元二千六百年」を“読む”
第60回	令和4年7月1日～11月11日	山口甚佐久撮影昭和十年代樫原周辺大和史蹟等アルバムより
第61回	令和4年11月12日～5年3月5日	『古都の弔旗』を読む
第62回	令和5年3月5日～6月29日	奈良県の招魂社と護国神社
第63回	令和5年7月1日～10月29日	空への憧れ ～ある戦死飛行兵の資料から